

Yamaguchi University Hospital Guide

2026-2027

山口大学医学部附属病院ガイド

YAMAGUCHI UNIVERSITY



目次 Contents

P.02　病院長挨拶
P.03　トピックス
P.05　病院概要
P.07　沿革
P.09　機構図
P.10　役職員
P.11　診療科
P.22　診療施設
P.30　企画・管理部門
P.35　診療科連携部門
P.38　薬剤部、看護部等
P.39　建物配置図

表紙　作品タイトル《ときをつなぐたね》｜《 Seeds of Time》
　　アーティスト 早崎 真奈美　　撮影｜表 恒匡

病院長挨拶

A Message from the Director



安心･安全でより良い医療を提供し続けること

山口大学医学部附属病院長
松永 和人

本院は、山口県の中核病院として発展してきた長い歴史と伝統を持ち、これまで県内をはじめ国内外で活躍する多くの人材を輩出し、医学・医療の発展と医療人の育成に尽力してまいりました。大学病院は診療、教育、研究の 3 つの重要な使命があります。これらの使命を達成するために、「一人ひとりの健康と安心の探求と実現」を理念とし、①患者さんに寄り添い、安全で良質な医療を提供する ②個性や価値観を尊重し、安心して能力を発揮できる職場環境を創る　③豊かな人間性を持ち、多様な場で活躍できる医療人を育成する　④世界に誇れる先端医療を探求しつづける　⑤持続可能な地域医療の実現に貢献する　を基本方針としています。

本院は、現在、ベッド数 745 床、30 の診療科と 24 の診療施設を擁し、あらゆる分野の疾患を専門的かつ総合的に診療できる山口県内唯一の特定機能病院です。国立大学病院で最初に設置認可された「高度救命救急センター」を中核に、山口県の高度救急医療体制を担うとともに、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、アレルギー疾患医療拠点病院、災害拠点病院等、山口県の拠点病院に指定されています。また、AI システム医学・医療研究教育センターを設置し、多くの診療科と人工知能 AI を用いた研究開発が進められ、AI 技術を活用した診療支援が始まっています。

さらに、新たな挑戦として、さまざまな分野のプロフェッショナルが綿密に連携しながら総合的な治療やケアを提供するセンター化を進め、診療機能の強化に取り組んでいます。現在、生殖医療センター、低侵襲手術センター、膠原病センターをはじめ 9 センターが分野連携型の診療を開始しています。大学病院は、将来を見据え、優れた医療人材をバランス良く育成していくことで人々の生活と繋がりを守り、安心して暮らせる社会の実現を目指していく使命があります。本院は、今後の社会の変化に柔軟に対応しながら、すべての診療部門が一丸となってより良い医療を目指す挑戦を続けてまいります。

本院は、高度医療を提供するための礎として、国立大学病院としては初となる 2 回目の病院再開発整備事業を 2014 年度から進めてきました。この度、無事に主要施設の工事を完了することが出来ました。10 年以上の長きに渡り、ご理解とご協力をいただきました皆様に、この場をお借りしまして心より深く感謝申し上げます。

本院の使命は、山口県の医療における " 最後の砦 " を務め、地域医療の「安心」と「未来」を育むことです。その実現のためには、「安心・安全でより良い医療を提供し続けること」が最も大切です。患者さんを中心とした良質な医療を目指して、すべての職員が常日頃から取り組んでいるところですが、本院が未来に向けて歩んでいくためには、医療側の視点だけではなく、皆様からの率直なご意見が必要です。今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。

トピックス

Topics

Topics 1
膠原病センターを開設



診療科や講座の枠を超えて連携

2026 年 4 月より膠原病センターを開設しました。膠原病内科、整形外科、皮膚科、呼吸器内科等の診療科に加え、基礎医学講座や病態検査学講座が連携することで、膠原病の診療ならびに研究機能の強化を図ることが目的です。開設により、医学部生の膠原病・免疫学への興味喚起を促すカリキュラムの導入をはじめ、山口大学発の膠原病の新規治療や診療システムの構築など、本学独自の取り組みを実践してまいります。
膠原病センター長：佐野 元昭 教授（第二内科）

Topics 2
総合診療医センターを開設



黒川典枝センター長

山口県内における総合診療医養成体制をいっそう強化する目的で、2026 年 1 月より総合診療医センターを開設しました。これに伴い、連携協定を締結している山口県立総合医療センター内にその一部を担う「総合診療推進サテライトセンター」を設置しました。
総合診療医センター長：黒川 典枝 教授
総合診療推進サテライトセンター長：原田 昌範 准教授

Topics 3
摂食嚥下外来を開設

摂食嚥下機能の低下に専門的に対応する外来を 2026 年 1 月に開設しました。耳鼻咽喉科医、歯科口腔外科医、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士からなる多職種連携で、口腔や嚥下の機能を評価し、原因に応じた治療方針を決定します。患者さん一人ひとりの病状に合わせた嚥下リハビリテーションや食事指導、栄養指導を行い、誤嚥性肺炎の予防と「口から食べる」生活の維持を目指します。本外来は予約制です。



嚥下内視鏡検査の様子

Topics 4
前立腺がんのプルヴィクト治療

放射線科では、去勢抵抗性前立腺がんに対する新しい治療法として、2026 年 4 月よりプルヴィクト治療を実施しています。本治療は、泌尿器科で実施している PSMA-PET 検査で陽性と判定された方が対象です。本治療は 1 回あたり 2 泊 3 日の入院で、合計 6 回の投与が必要です。入院中は RI 治療病室という特殊な個室に入院します。病室はシャワー、トイレ、テレビが完備されており、快適にお過ごしいただけます。PSMA-PET 検査とプルヴィクト治療を一つの施設で実施している医療機関は、山口県内では本院のみです。



RI 治療病室

Topics 5
EV-ICD を用いた不整脈治療

EV-ICD（血管外植込型除細動器）は本体が小型で電池寿命が約 10 年と長く、長期間デバイスを保持し続ける必要がある若い患者さんに有用な治療です。リードを血管外の胸骨下に留置するため、血管内感染のリスクの低減や血管・弁などへの影響が乏しいことなど、将来的なリードトラブルのリスクを低減できます。また、抗頻拍ペーシング（ATP）や短時間の徐脈ペーシングも可能です。
2026 年 9 月現在、山口県では本院のみが EV-ICD を用いた不整脈治療の実施施設です。



EV-ICD 植込イメージ図
（提供：日本メドトロニック株式会社）

Topics 8
再開発整備事業が終了

2014 年から足かけ 11 年、長きにわたる本院の再開発整備事業が終了しました。2026 年 4 月には、最後の整備事業として、本院 B 棟 2 階に院内図書室が誕生。扱う書籍約 2000 冊のうち約 130 冊は、山口大学経済学部の学生が選書したものです。図書室の奥には「TURRY'S COFFEE」も誕生し、誰でも自由に図書室の本を店内で読むことができるほか、入院患者さんは図書室の本を借りることもできます。



院内図書室。奥は TURRY'S COFFEE

Topics 6
赤ちゃんの頭の形の歪みを治療

脳神経外科では、赤ちゃんの頭の形の歪みについての診療を行っています。赤ちゃんが寝る方向や向きぐせ等によって生じる位置的頭蓋変形、病気に起因する頭蓋縫合早期癒合症など、赤ちゃんの頭の形の歪みについて、診察や頭部の形状評価を行い、必要に応じて画像検査などを実施しています。専用ヘルメットの装着による治療も行っています。

Topics 7
PICSI による不妊治療

産科婦人科の不妊治療では、顕微授精（ICSI）において先進医療であるヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術（PICSI）が選択できます。ICSI は形態学的選別が現在の主流ですが、形態学的に良好と判断された精子であっても受精に適した成熟精子とは限らないという報告もあり、未成熟の精子を用いた受精では流産率が上がる報告もされています。本院の産科婦人科は、山口県内で唯一 PICSI の選択が可能です。PICSI は保険適用の対象外ですが、先進医療として生殖補助医療と併用して行うことができます。

Topics 9
看護部マスク 2 色制の取り組み

看護部では、看護職員が着用するマスク 2 色制の取り組みを行っています。日勤者のマスクは白色、夜勤者はオレンジ色で区別し、看護職員の勤務時間帯を他の職員に分かりやすく示しています。これにより、残る業務を職員同士が補完し合い、勤務終了時にねぎらいの言葉をかけ合う職場風土の醸成と、他職種からの適切な指示出しによる業務の効率化に努めています。



病院概要

Overview



患者さんの権利

本院は、高度医療機関として、また、教育・研究機関としての役割を担う中で、多様性を尊重し、患者さんの権利を守ります。

1. あなたは、人格を尊重され、人としての尊厳を保った適切な医療を受けることができます。
2. あなたは、医師等から十分な説明を受け、ご自分の希望や意見を述べることができ、自らの意思で診療内容を決めることができるとともに、希望しない医療を拒否する権利があります。
3. あなたは、診療について別の医師等の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
4. あなたは、診療内容に関するあらゆる情報を得ることができます。
5. あなたは、診療費の内容について知ることができます。
6. あなたのプライバシー及び個人情報は、最大限保護されます。
7. あなたは、教育実習や研究の対象となることを望まないときは、これを断ることができます。
8. あなたは、医療・福祉などの相談をすることができます。
9. あなたは、病院のサービス改善を要求することができます。

こどもの患者さんの権利と責務

1. あなたは、人として大切にされ、一番自分に合った医療を受けることができます。
2. あなたとご家族は、わかりやすい言葉で説明を受け、自分の病気や検査、病気を治す方法について知ることができます。
3. あなたは、自分が受ける検査や病気を治す方法について十分な説明を受けたうえで、自分の考えや気持ちを病院の人やご家族に伝え、自分で決めることができます。
4. あなたを診察しているお医者さんとは別の病院のお医者さんの考えを聞くことができます。
5. あなたは、入院していても、勉強の手助けを受けたり、遊んだりすることができます。
6. あなたとご家族が愛情深く過ごせるよう、病院に助けてもらうことができます。
7. あなたの病気やけがを治している間に病院が知った、あなたの秘密は守られます。
8. あなたのこころやからだの状態を病院に伝えてください。
9. あなたとみんながもっと過ごしやすくするために、病院の約束を守ってください。

病院概要

名　　称	山口大学医学部附属病院
所 在 地	〒755−8505　山口県宇部市南小串一丁目 1 番 1 号
病 院 長	松永　和人
標榜診療科	30 診療科 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、精神科、心療内科、小児科、アレルギー科、外科、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、リウマチ科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、歯科口腔外科、脳神経内科、臨床検査科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科
病 床 数	745 床
各種指定	消防法の規定に基づく救急病院・臨床修練指定病院・特定機能病院・災害拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院・難病診療連携拠点病院 ・高度救命救急センター 都道府県がん診療連携拠点病院・エイズ治療中核拠点病院・肝疾患診療連携拠点病院 山口県 DMAT 指定病院・ 総合周産期母子医療センター指定病院・原子力災害拠点病院 都道府県アレルギー疾患医療拠点病院

本院で承認されている先進医療

2026年7月1日現在

区　分	承認日	実施診療科
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR 法）	令和3年7月1日	眼科
S−1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 （膵臓がん（遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。））	令和3年8月1日	第二外科
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん（初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。） ※保険診療として行う外科的治療のみ実施	令和4年7月1日	第二外科
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	令和5年6月1日	産科婦人科
術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブ−パクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な膵臓がん（七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。）	令和5年7月1日	第二外科
ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術（PICSI）	令和7年7月1日	産科婦人科

沿革

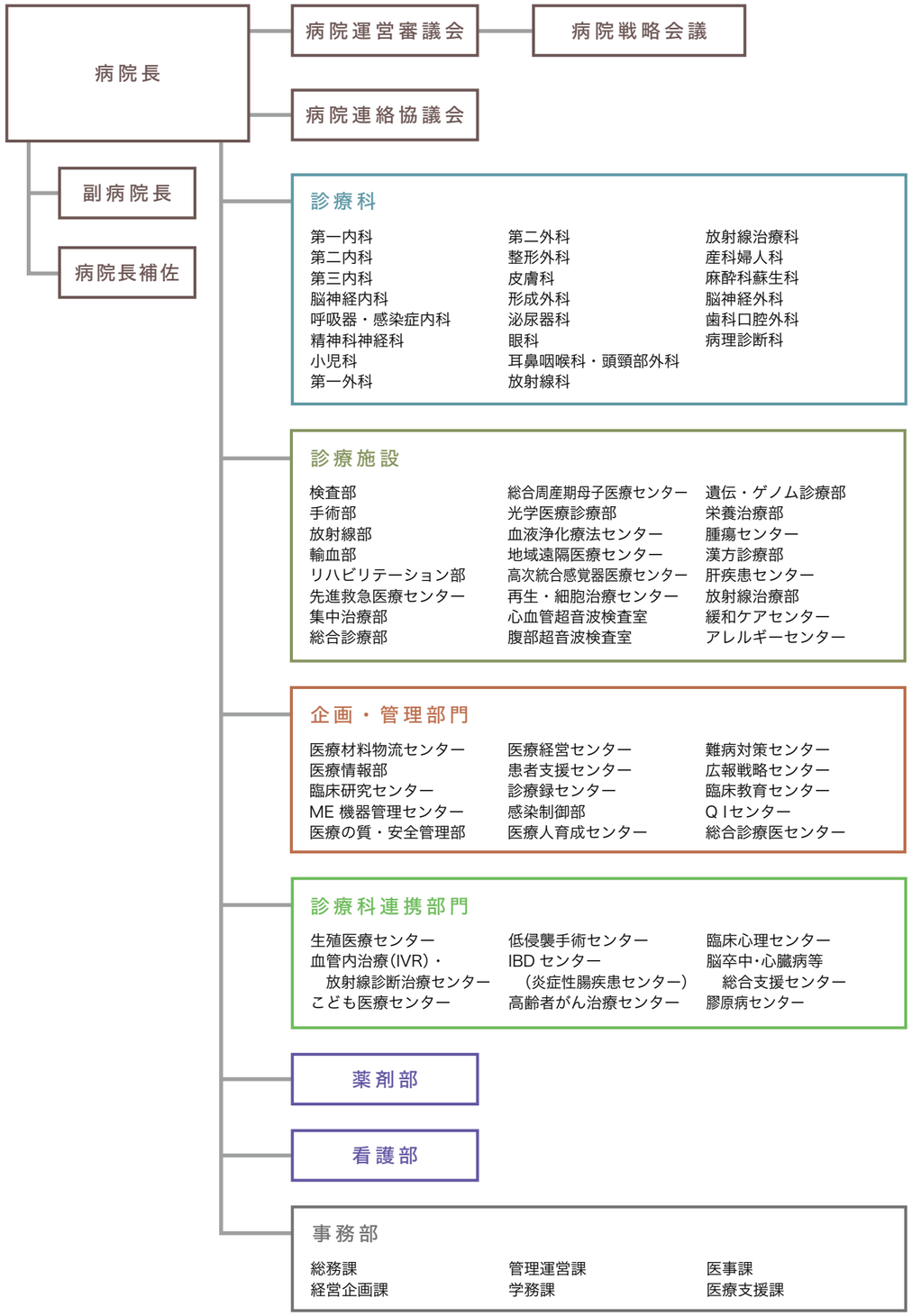
History

昭和19年(1944)　4月 山口県立医学専門学校設置
昭和22年(1947)　6月 山口県立医科大学設置認可、同時に予科開設
昭和23年(1948)　11月 附属病院第1期工事竣工
昭和30年(1955)　9月 精神病棟開設
昭和32年(1957)　11月 附属病院本館2階を病棟に改修、535床に増床
昭和38年(1963)　10月 皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科に分離
昭和42年(1967)　6月 山口大学医学部附属病院創設(国立移管)
厚生省収医第248号をもって病院の開設承認(14診療科・病床数750床)診療科：第一内科、第二内科、精神科神経科、小児科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産科婦人科、歯科　中央診療施設：検査部、手術部
昭和43年(1968)　4月 第三内科新設(15診療科)
昭和44年(1969)　4月 麻酔科新設(16診療科)
昭和45年(1970)　1月 病床数759床に変更
4月 輸血部新設
昭和47年(1972)　5月 脳神経外科新設(17診療科)
昭和48年(1973)　4月 材料部新設
昭和49年(1974)　7月 伝染病棟を廃止し、共通病棟と改称
昭和50年(1975)　10月 放射線部新設
「歯科」を「歯科口腔外科」と改称
昭和51年(1976)　5月 文部省令第18号により附属病院に看護部設置
10月 理学療法部新設
昭和52年(1977)　10月 分娩部新設
昭和55年(1980)　4月 事務部を3課制(総務課、管理課、医事課)に改組
集中治療部新設
昭和57年(1982)　4月 救急部新設
昭和58年(1983)　4月 医学部及び附属病院事務部を統合し、医学部事務部(総務課、管理課、学務課、医事課)に改組
昭和63年(1988)　4月 神経内科新設(18診療科)
平成元年(1989)　5月 「麻酔科」を「麻酔科蘇生科」と改称
平成2年(1990)　3月 MR(磁気共鳴)棟竣工
6月 総合診療部新設
10月 総合治療センター設置
母子医療センター設置
平成5年(1993)　4月 分娩部(母子医療センター)を廃止し、周産母子センター設置
平成6年(1994)　1月 特定機能病院の承認
平成8年(1996)　5月 医療情報部新設
平成9年(1997)　3月 新中央診療棟竣工
4月 病理部新設
循環器科、心療内科、アレルギー科、心臓血管外科、リウマチ科設置
院内学習室(院内学級)設置
平成11年(1999)　4月 救急部を廃止し、先進救急医療センター設置(文部省)
10月 結核病床15床を一般病床に種別変更
救命救急センターの設置承認(山口県)
平成12年(2000)　3月 高度救命救急センターの設置承認(山口県)
救急外来の新設
平成13年(2001)　4月 治験管理センター設置
11月 医療安全推進室設置
平成15年(2003)　4月 光学医療診療部設置
平成16年(2004)　4月 国立大学法人へ移行
「治験管理センター」を「臨床試験支援センター」に改称
7月 「栄養管理室」を「栄養治療部」へ改組
平成18年(2006)　4月 感染制御室設置
4月 外来腫瘍治療部設置
9月 病床数737床に変更
10月 腫瘍センター設置
平成19年(2007)　1月 山口県がん診療連携拠点病院に指定
4月 病床数736床に変更

6月 消化器科、呼吸器科、呼吸器外科、小児外科設置
9月 高度救命救急センターの改修
平成20年(2008)　5月 臨床検査科設置
12月 病院機能評価(Ver.5.0)認定
平成21年(2009)　2月 山口県肝疾患診療連携拠点病院に指定
6月 クリニカルスキルアップセンター設置
10月 肝疾患センター設置
平成22年(2010)　4月 放射線治療部設置
平成23年(2011)　1月 ドクターヘリ運航開始
4月 総合周産期母子医療センターに指定
10月 医療人育成センター設置
平成24年(2012)　3月 地域医療教育研修センター竣工
平成25年(2013)　2月 放射線治療科設置
平成26年(2014)　4月 「臨床試験支援センター」を「臨床研究センター」と改称
二次被ばく医療機関に指定
病院機能評価(3rd G:Ver.1.0)一般病院2認定
病理診断科設置
6月 救急科設置
平成27年(2015)　2月 リハビリテーション科設置
4月 呼吸器・感染症内科設置
入退院センター設置
「感染制御室」を「感染制御部」へ改組
「医療安全推進室」を「医療安全推進部」へ改組
外来診療棟横立体駐車場竣工
9月 難病対策センター設置
平成28年(2016)　3月 緩和ケアセンター設置
4月 「病理部」を「病理診断科」と改称
地域医療システム学研究センター設置
10月 附属病院保育所新営
平成29年(2017)　3月 地域医療システム学研究センター廃止
9月 広報戦略センター設置
平成30年(2018)　1月 臨床教育センター設置
4月 医学系研究科・医学部附属病院AIシステム医学・医療研究教育センター設置
「血液浄化療法室」を「血液浄化療法センター」と改称
7月 「医療安全推進部」を「医療の質・安全管理部」と改称
12月 「神経内科」を「脳神経内科」と改称
平成31年(2019)　3月 A棟(新病棟)竣工
4月 形成外科設置
診療連携室、患者相談室、入退院センターを統合し、患者支援センター設置
ＱＩセンター設置
「遺伝診療部」を「遺伝・ゲノム診療部」と改称
令和元年(2019)　6月 A棟(新病棟)開院、病床数756床に変更
令和2年(2020)　3月 災害拠点病院に指定
新生児ドクターカー「すくすく号」運行開始
女性診療外来廃止
病院機能評価(3rd G:Ver.2.0)一般病院3認定
4月 都道府県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
令和4年(2022)　3月 原子力災害拠点病院に指定
4月 アレルギーセンター設置
令和5年(2023)　12月 「耳鼻咽喉科」を「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」に改称
令和6年(2024)　1月 「生活機能向上センター」を廃止
4月 病床数754床に変更
令和7年(2025)　9月 C棟(外来診療棟)の改修
5月 病院機能評価(3rd Ver.3.0)一般病院3認定
8月 外来棟の竣工
10月 病床数745床に変更
令和8年(2026)　1月 総合診療医センター設置
2月 「超音波センター」を「心血管超音波検査室」「腹部超音波検査室」へ改組
4月 水素トランスレーショナル医療研究センター設置
10月 病理診断科を診療施設から診療科へ改組

機構図

Organizational Chart



役職員

Executives and Department Heads

病院長　松永 和人

副病院長　長谷川 俊史　坂井 孝司　下村 裕　白石 晃司　石原 秀行　藤井 聡美

病院長補佐　高見 太郎　太田 康晴　佐野 元昭　北原 隆志　俵山 明

診療科

第一内科長	高見　太郎
第二内科長	佐野　元昭
第三内科長	太田　康晴
脳神経内科長	中川　　伸（事務取扱）
呼吸器・感染症内科長	松永　和人
精神科神経科長	中川　　伸
小児科長	長谷川　俊史
第一外科長	佐野　元昭（事務取扱）
第二外科長	高見　太郎（事務取扱）
整形外科長	坂井　孝司
皮膚科長	下村　　裕
形成外科長	髙須　啓之
泌尿器科長	白石　晃司
眼科長	木村　和博
耳鼻咽喉科・頭頸部外科長	菅原　一真
放射線科長	伊東　克能
放射線治療科長	田中　秀和
産科婦人科長	長谷川　俊史（事務取扱）
麻酔科蘇生科長	松﨑　　孝
脳神経外科長	石原　秀行
歯科口腔外科長	三島　克章
病理診断科長	荒木　亜寿香

診療施設

検査部長	山﨑　隆弘
手術部長	松﨑　　孝
放射線部長	伊東　克能
輸血部長	山﨑　隆弘
リハビリテーション部長	坂井　孝司
先進救急医療センター長	鶴田　良介
集中治療部長	松﨑　　孝
総合診療部長	黒川　典枝
総合周産期母子医療センター長	長谷川　俊史
光学医療診療部長	高見　太郎
血液浄化療法センター長	白石　晃司
地域遠隔医療センター長	石原　秀行
高次統合感覚器医療センター長	菅原　一真
再生・細胞治療センター長	山﨑　隆弘
心血管超音波検査室長	佐野　元昭
腹部超音波検査室長	高見　太郎
遺伝・ゲノム診療部長	末廣　　寛
栄養治療部長	太田　康晴
腫瘍センター長	井岡　達也
漢方診療部長	瀬川　　誠

診療施設

肝疾患センター長	高見　太郎
放射線治療部長	田中　秀和
緩和ケアセンター長	松﨑　　孝
アレルギーセンター長	長谷川　俊史

企画・管理部門

医療材料物流センター長	高見　太郎
医療情報部長	平野　　靖
臨床研究センター長	下村　　裕
ＭＥ機器管理センター長	高見　太郎
医療の質・安全管理部長	渡谷　祐介
医療経営センター長	長谷川　俊史
患者支援センター長	佐野　元昭
診療録センター長	坂井　孝司
感染制御部長	枝國　信貴
医療人育成センター長	長谷川　俊史
難病対策センター長	清水　文崇
広報戦略センター長	長谷川　俊史
臨床教育センター長	松永　和人
Ｑ Ｉセンター長	坂井　孝司
総合診療医センター	黒川　典枝

診療科連携部門

生殖医療センター長	白石　晃司
血管内治療（IVR）・放射線診断治療センター長	伊東　克能
こども医療センター長	長谷川　俊史
低侵襲手術センター長	白石　晃司
IBD センター長（炎症性腸疾患センター）	高見　太郎
高齢者がん治療センター長	井岡　達也
臨床心理センター長	中川　　伸
脳卒中・心臓病等総合支援センター長	石原　秀行
膠原病センター長	佐野　元昭

薬剤部

薬剤部長	北原　隆志

看護部

看護部長	藤井　聡美

事務部

事務部長	足立　正博

第一内科

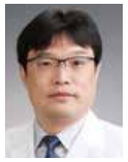
消化管内科
肝臓内科
胆道膵臓内科

外来 0836-22-2501

Internal Medicine Ⅰ [Division of Gastroenterology, Division of Hepatology, Division of Pancreaticobiliary Tract]

消化器疾患の患者さんに寄り添った先進医療を

HP



高見 太郎 科長
Director. Taro Takami

当科は消化管、肝臓、胆道・膵臓疾患の専門的な診療を行っています。

■消化管疾患

食道から大腸までの全消化管に対し、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡を含む内視鏡検査に対応しています。早期がんの内視鏡的切除術において良好な治療成績を得ています。潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患（IBD）も、設立したIBDセンターにおいて他科と連携し診療にあたっています。

■肝臓疾患

慢性肝臓病はもちろん進行した肝硬変、肝がん、門脈圧亢進症などの総合的な診療を行っています。肝がんにはラジオ波焼灼療法、カテーテル治療、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など幅広い治療選択肢で対応します。門脈圧亢進症には内視鏡やカテーテルでの専門性の高い治療を行っています。また、進行した肝硬変を対象に自己骨髄間葉系間質細胞（MSC）を用いた再生療法を実施しています。「減酒外来」や「メタボ外来」では生活習慣病の相談も可能です。

■胆道・膵臓疾患

胆石、胆道炎、膵炎、胆道がん、膵がんなど、胆道および膵臓の良性・悪性疾患を診療しています。特に内視鏡や超音波内視鏡を用いた診断・治療では、国内外のトップレベルの施設で行われている検査・治療のほとんどを実施しています。超音波内視鏡（EUS）、バルーン内視鏡、経口胆道鏡による診断・治療に注力し、早期発見が困難な胆道・膵臓領域の悪性疾患の高精度診断を目指しています。がんの進行に伴う症状の緩和治療にも取り組んでいます。



消化管内視鏡検査

第二内科

循環器内科
腎臓・高血圧内科
膠原病内科

外来 0836-22-2501

Internal Medicine Ⅱ [Division of Cardiology, Division of Nephrology and Hypertension, Division of Clinical Immunology]

チームで高度な全人的医療を提供しています

HP



佐野 元昭 科長
Director. Motoaki Sano

■循環器

当科では、心血管疾患に対する高度かつ迅速な医療を提供しています。急性心筋梗塞には24時間体制で対応し、重症心不全に対しては、経皮的心肺補助装置（PCPS）や心内留置型ポンプカテーテル（IMPELLA）などの循環補助デバイスを導入することで、高い救命率を維持しています。冠動脈疾患には 血管内超音波検査（IVUS）／光干渉断層診断（OCT）による精緻な評価を踏まえた最適な経皮的冠動脈形成術（PCI）を行い、高度石灰化や分岐部病変にも対応可能です。弁膜症には経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、経皮的僧帽弁接合不全修復術（MTEER）、不整脈には最新のマッピングシステムを用いたアブレーションなど、集学的治療を展開し、予後の改善を目指します。肺高血圧症や心筋症などの希少・難治性疾患に対しても積極的に取り組んでいます。

■腎臓病

あらゆる腎疾患を対象に、検尿異常や腎機能低下には腎生検により正確な診断を行い、免疫抑制薬などを用いた専門的治療を提供しています。重症例には集中治療室での血液浄化療法を実施しています。慢性腎臓病に対しては、糖尿病や高血圧など原疾患に即した介入を行い、循環器内科と連携しながら心腎連関の視点で包括的な全身管理を実践しています。

■膠原病・臨床免疫

多様な自己免疫疾患に対し、寛解維持を目標とした個別化医療を提供しています。病態や臓器障害に応じ、ステロイドや免疫抑制薬のほか、生物学的製剤・分子標的薬を適切に選択しています。必要に応じて他診療科とも連携し、複雑な病態にも対応可能なチーム医療体制を整えています。



冠動脈カテーテル治療

第三内科

血液内科
糖尿病・内分泌内科

外来 0836-22-2501

Internal Medicine Ⅲ [Division of Hematology, Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology]

専門知識と技術で、心のこもった医療を提供します

HP



太田 康晴 科長
Director. Yasuharu Ohta

当科は血液疾患、糖尿病、内分泌疾患の専門診療を行っています。

■血液疾患に対する高度医療

白血病、悪性リンパ腫、各種貧血、血小板減少症など血液疾患全般を診察しています。なかでも難治性血液悪性疾患に対して造血幹細胞移植やCAR-T細胞療法、新規分子標的治療、各種化学療法を積極的に行っています。1983年の開始以来、同種造血幹細胞移植は450症例を超え、治療成績の向上に貢献してきました。当科は山口県で唯一の同種造血幹細胞移植およびCAR-T細胞療法の実施施設であり、関連病院と連携をとり、県内の血液疾患の患者さんに広く高度医療を提供しています。またエイズ治療中核拠点病院としてHIV感染症の診療も行っています。

■糖尿病・内分泌疾患の包括的治療

糖尿病と内分泌疾患（下垂体・甲状腺・副腎などのホルモン異常）を専門的に診療しています。近年増加の一途をたどる糖尿病に対しては、網膜症・腎症・神経障害や動脈硬化性合併症の予防・進展阻止のため、最新の知識と技術による集学的治療を実践し、地域の糖尿病センターとして診療連携の要の役割を果たすとともに、新薬開発にも積極的に取り組んでいます。さらに、糖尿病発症メカニズム解明のための基礎研究を推進し、世界的な成果を上げています。



教授回診

脳神経内科

外来 0836-22-2707

Neurology

脳から筋肉まで、あらゆる神経疾患を診療します

HP



（事務取扱）
中川 伸 科長
Director. Shin Nakagawa

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経、筋肉の内科的疾患を幅広く診療しています。脳卒中、認知症、てんかん、頭痛といった一般的な疾患から、いわゆる「難病」まで、診断困難な症例やセカンドオピニオンにも対応しています。特に以下の部門に重点を置いた高度な医療を提供しています。

■神経筋疾患

重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症、ギラン・バレー症候群、CIDP、筋ジストロフィー、筋炎などの難治性疾患に対し、電気生理学、病理学、細胞培養学などを駆使した診断と適切な治療の実践、また新規治療法の開発に取り組んでいます。

■多発性硬化症と視神経脊髄炎

免疫が関係する神経疾患について、豊富な診療経験に基づき正確な診断と免疫調整薬を中心とした先端的治療を行うとともに、疾患研究や新たな治療薬の開発も行っています。

ほかにも、パーキンソン病、小脳失調症、ジストニア、アルツハイマー型認知症に対し、正確な診断に基づいた薬物療法やボツリヌス毒素治療を実施しています。脳卒中には、超急性期および慢性期の内科的治療を主眼に診療を進めています。片頭痛をはじめとする頭痛の予防・治療には先進的な脳科学の成果を取り入れ、実践しています。



外来診療

呼吸器・感染症内科

外来 0836-22-2501

Respiratory Medicine

～ 呼吸を診る、全身を診る ～

HP



松永 和人 科長
Director. Kazuto Matsunaga

呼吸器・感染症内科は、喘息・COPD などの閉塞性肺疾患、肺炎・結核などの呼吸器感染症、間質性肺炎、慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、肺がんなど多岐にわたる呼吸器疾患を診療します。画像診断、呼吸機能検査、気管支鏡検査（EBUS-GS、EBUS-TBNA、クライオ生検）などを活用し、迅速で正確な診断と最適な治療を提供しています。

■間質性肺炎への専門的対応

間質性肺炎の診療には専門的な知識と経験が求められます。当科では専門外来を設置し、身体所見・画像検査・気管支鏡を用いた正確な診断と個別化治療を行っています。さらに、短期間で集中的な評価・治療を行う短期入院クリニカルパスを導入し、多職種と連携した包括的な診療体制を整えています。

■喘息・COPD の個別化医療

喘息・COPD では、症状アンケート、呼吸機能検査、呼気 NO 検査、気道過敏性検査など客観的指標に基づき、正確な診断と個別化治療を行っています。特に重症例では、生物学的製剤を適切に選択・使用し、より効果的な治療を実践しています。

■肺がんへの精密診断と個別化治療

肺がんでは、気管支鏡検査による十分な組織採取、遺伝子検査・PD-L1 検査に基づく薬物療法、外科・放射線治療科・腫瘍センターとの連携による集学的治療を行っています。がん遺伝子パネル検査や院内エキスパートパネルを含むがんゲノム医療体制も活用し、患者さん一人ひとりに適した治療選択を支援しています。

■全身を診る視点での未来志向の医療

呼吸器疾患は、呼吸器にとどまらず全身の健康と密接に関わります。当科では、栄養状態、身体活動、心理社会的側面にも配慮し、専門性と多面的な視点を融合させた包括的な診療に取り組んでいます。



気管支鏡検査の実際

精神科神経科

精神科神経科・心療内科

外来 0836-22-2506

Neuropsychiatry [Division of Neuropsychiatry and Psychosomatic Medicine]

こころの健康を守ります

HP



中川 伸 科長
Director. Shin Nakagawa

当科では、児童・思春期から老年期まで、神経発達症、統合失調症、うつ病・双極症、不安症、身体疾患に伴う精神疾患、認知症など、幅広い精神疾患を診療しています。問診や神経診察に十分な時間をかけ、国際的診断基準に則った診断を行います。また、画像検査や神経心理・認知機能検査など必要に応じて実施していきます。患者さんの心理・社会的な背景を理解し、適切な働きかけや配慮を行うとともに、エビデンスに基づいた適正な治療を提供し、話し合いのもと治療を決定、実践していきます。

外来（B 棟 3 階）では一般診療に加え児童思春期・摂食症・認知症の専門外来を行っています。また、コンサルテーション・リエゾン、緩和ケア、ペインセンター、精神科救急、生体肝移植への精神医学的関与などの診療も行っています。病棟（A 棟 7 階）では、修正型電気けいれん療法（mECT）、反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）、摂食症の入院治療、1 週間の認知機能検査入院など、専門的な入院医療を提供しています。

臨床心理センターと連携し精神療法（認知行動療法、カウンセリングなど）を充実させており、外来横に設置された作業療法室では SST や認知リハビリテーションを行っています。精神科ソーシャルワーカー（PSW）もチーム医療に加わり、生活に根ざした支援を強化しています。



外来受付（B 棟 3 階）

小児科

小児科
アレルギー科

外来 0836-22-2508

Pediatrics [Division of Pediatrics, Division of Allergy]

すべてのこどものために

HP



長谷川 俊史 科長
Director. Shunji Hasegawa

当科では小児科とアレルギー科において、幅広い疾患の専門的な診療を提供しています。

■小児科

小児科では、あらゆる小児の内科的疾患に対応し、各分野の専門医・認定医が難治性疾患の治療にあたります。免疫細胞機能解析、サイトカイン解析、超音波検査、電気生理検査、呼吸機能検査、腎生検、心臓カテーテル検査、消化管内視鏡など多岐にわたる検査を実施しています。また、血液・悪性腫瘍への造血幹細胞移植、新生児低酸素虚血性脳症や急性脳炎 / 脳症に対する脳低温療法、川崎病への血漿交換療法などの特殊治療も行っています。2023 年度からはこども医療センターを開設し、内科・外科問わず各診療科が連携し、集学的な治療を実践しています。医師、看護師、保育士、臨床心理士など多職種が連携し、患児一人ひとりを細やかに診療しています。

■アレルギー科

アレルギー科では、小児から成人まで幅広い年齢層のアレルギー疾患を診断・治療しています。原因検索のため、特異的 IgE 抗体検査、皮膚テスト（プリックテスト、スクラッチテスト）、負荷試験などを実施。特に食物アレルギーの負荷試験は、ガイドラインに基づき積極的に行っています。アレルギーは全身の臓器に関わるため、総合的な診断が必要です。アレルギーセンターでは、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科など小児科を含む複数科が連携して山口県全域にわたるアレルギー診療ネットワークの中心的役割を担っています。



プレイルーム

第一外科

心臓外科、血管外科、呼吸器外科、小児外科
消化管外科、肝・胆・膵外科
乳腺・内分泌腺外科

外来 0836-22-2510

Surgery I [Division of Cardiac Surgery, Division of Chest Surgery, Division of Pediatric Surgery, Division of Gastroenterological Surgery, Division of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Division of Breast and Endocrine Surgery]

卓越した診療、教育、研究で患者さんの QOL 向上を

HP



（事務取扱）
佐野 元昭 科長
Director. Motoaki Sano

当科は心臓外科、血管外科、呼吸器外科、小児外科、消化器外科、乳腺外科と、多岐にわたる外科治療を提供しています。

■心臓外科

先天性・後天性心疾患に対し外科治療を行います。MICS（低侵襲心臓手術）を積極的に導入しています。全国的にも早期から経カテーテル大動脈弁留置術の実施施設と認定されています。急性大動脈解離などの救急疾患にも 24 時間体制で対応しています。

■血管外科

胸・腹部大動脈、末梢動脈・静脈・リンパ管疾患に対し外科的治療を行っています。ステントグラフト内挿術など血管内治療を中心にエキスパートが対応します。

■呼吸器外科

肺および縦隔の良性・悪性疾患に対し外科的治療を行います。胸腔鏡やロボット支援手術を早期から導入し、精通しています。

■小児外科

新生児から中学生までの外科的治療を専門医が担当し、小児科などと連携しながら専門性の高い治療を提供しています。

■消化器外科

胃、大腸などの消化管および肝、胆、膵疾患の外科的治療を腹腔鏡下やロボット支援下において幅広く行っています。

■乳腺外科

乳がんに対する手術・化学療法を行っています。



手術の実際

第二外科

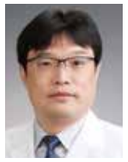
消化管外科
肝・胆・膵外科
乳腺・内分泌腺外科

外来 0836-22-2150

Surgery Ⅱ [Division of Gastrointestinal Surgery, Division of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery and Liver Transplantation, Division of Breast and Endocrine Surgery]

消化器外科、乳腺外科、肝移植を担当します

HP



（事務取扱）
高見 太郎 科長
Director. Taro Takami

当科は消化器がん、乳がんの外科治療を中心に、化学療法や免疫療法などを組み合わせた集学的治療を専門としています。

■食道・胃・大腸

食道がんは独自開発の縦隔鏡下切除術で好成績を得ています。早期胃がんは腹腔鏡補助下胃切除術を標準術式としています。大腸がんの約 95%は腹腔鏡補助下に手術し、人工肛門を作らない肛門機能温存術式も行っています。食道・胃・大腸にはロボット支援下手術も行い、直腸（肛門）脱による機能性疾患に対する手術も対応しています。

■肝・胆・膵外科

当科は県内唯一の肝胆膵外科高度技能修練施設（A）です。肝･胆･膵外科では、肝臓、胆道、膵臓の手術を担当し、消化器内科、放射線科と連携しています。ロボットや腹腔鏡を用いた低侵襲肝切除・膵切除も実績豊富で、全国有数の治療成績をおさめています。予後不良の膵がん、胆道がんには、血管合併切除を伴う拡大切除と化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療で成績向上に努めています。

■乳腺外科

整容性や個々の患者の背景を考慮した術式選択、さらには遺伝性腫瘍に対するカウンセリングなど他の科と連携し、より高度な治療を安全に行えるよう努めています。画像ガイド下吸引生検の経験も豊富であり触知不能乳がんの診断も可能です。

腫瘍センターと連携し、消化器がんへの新規抗がん剤・免疫療法の臨床試験、企業治験を多くを行っています。遺伝子診断に基づくがん個別化治療を展開し、肝臓がんへの免疫複合療法の臨床試験の開発と応用にも取り組んでいます。



手術の実際

整形外科

整形外科・リウマチ科

外来 0836-22-2513

Orthopedic Surgery [Division of Orthopedic Surgery and Rheumatism]

日常生活動作に関わる運動器障害の予防・治療を行います

HP



坂井 孝司 科長
Director. Takashi Sakai

当科は、骨・関節・脊椎などの骨格とそれを動かす神経・筋・靭帯などといった運動器の疾患を扱う診療科です。骨折、変形性関節症、椎間板ヘルニア、骨腫瘍などの整形外科全般に加え、特発性大腿骨頭壊死症、後縦靭帯骨化症といった指定難病、関節リウマチ、さらにはリハビリテーションやスポーツ医学に関する診断・治療を行っています。近年増加する高齢化に伴う変形性関節症や脊椎変性疾患、骨粗鬆症を原因とする骨折、スポーツ障害など、増え続ける整形外科のニーズに対応しています。

特に以下の分野を得意としています。

- 脊椎・脊髄疾患の診断・治療
- 関節外科（股関節、膝関節、肩関節、肘関節など）
- 機能再建術、手の外科（マイクロサージャリー）
- 骨・軟部腫瘍
- スポーツ整形外科
- 小児整形外科
- 骨粗鬆症（基礎、臨床）
- 関節リウマチの診断・治療
- リハビリテーション

患者さんの QOL 向上を目指し、リハビリテーションとの連携を重視しています。大学病院として、地域医療を支える中核病院としての役割を担い、他の地域中核病院や診療所と密に連携することで、あらゆる疾病へ適切な医療を提供できる医療圏の構築を目指しています。また、リハビリテーション部をはじめとする診療部門、看護部門、医療技術者との連携を深め、総合的に質の高い医療提供に努めています。



スタッフ

皮膚科

外来 0836-22-2515

Dermatology

専門性とチーム力を活かし、質の高い皮膚科医療を提供します

HP



下村 裕 科長
Director. Yutaka Shimomura

皮膚科では、皮膚に症状がある病気であれば、すべて診療対象としております。

代表的な疾患としては、皮膚悪性腫瘍（基底細胞がん、有棘細胞がん、メラノーマ、皮膚リンパ腫など）、血管腫、アトピー性皮膚炎、乾癬、接触皮膚炎、じんましん、光線過敏症、脱毛症、皮膚潰瘍、褥瘡、自己免疫性水疱症、膠原病、白癬、皮膚細菌感染症、帯状疱疹などのウイルス感染症、熱傷があります。

さらに、遺伝性毛髪疾患をはじめとしたさまざまな遺伝性皮膚疾患の診察および遺伝子検査も行っています。

また、脱毛症、乾癬、アトピー性皮膚炎については、専門外来を設けています。

当科では、すべての皮膚疾患に幅広く対処できるようスタッフ一同が協力体制をとっており、診断や治療の難しい患者さんに関しては、全員で診察を行い、カンファレンスで議論し、質の高い診断と治療が行われるよう努力しています。また、必要に応じて、他科の医師にも相談し、連携治療を行っております。



スタッフ

形成外科

外来 0836-22-2515

Plastic surgery

患者さんの QOL 向上のため、機能と形態をより正常に美しく

HP



髙須 啓之 科長
Director. Hiroyuki Takasu

形成外科では外科の基本である「きずをきれいに縫う」ことを重視しています。手術後のきずあとのケアまで専門治療を一貫して行っていますので、特に小児や女性の顔面など整容面の配慮が望ましい症例は、お気軽にご相談ください。

本院形成外科の３本柱は「皮膚腫瘍外科」「創傷外科」「再建外科」です。皮膚の良性・悪性腫瘍の手術、難治性下肢潰瘍（糖尿病性潰瘍、虚血性潰瘍、うっ滞性潰瘍）や褥瘡のマネージメント、マイクロサージャリーを用いた外傷や腫瘍切除後の再建（頭頚部再建、乳房再建）を専門としています。乳房再建に関しては人工乳房インプラントを用いた再建も可能です。

他の診療対象疾患としては、新鮮熱傷、顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷、体表面の先天異常（手、足、耳、眼瞼、臍）、瘢痕・ケロイド、眼瞼下垂、顔面神経麻痺後遺症、巻き爪、腋臭症などがあります。



スタッフ

泌尿器科

外来 0836-22-2517

Urology

患者さんの QOL 向上を最優先に泌尿器疾患の医療を実践

HP



白石 晃司 科長
Director. Koji Shiraishi

泌尿器科は、腎臓、副腎、膀胱、男性生殖器（精巣、前立腺、陰茎）の疾患に対し、内科的・外科的治療を組み合わせ、患者さんの QOL 向上を目指します。

■泌尿器悪性腫瘍

膀胱がんに対し、経尿道的手術を中心に、浸潤癌についてはロボットを用いた膀胱全摘や、放射線による膀胱温存療法を行い、患者さんごとの QOL を重視しています。前立腺がんにはロボットを用いた神経温存前立腺全摘除術や金球マーカー留置併用強度変調放射線治療（IMRT）を実施しています。腎細胞がんには根治的腎摘除術や腎部分切除術を腹腔鏡やロボットを用いて行っています。

■腎不全

慢性腎不全に対し、患者さんの状態や生活スタイルに応じた腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の提供を行っています。腎移植の際のドナーからの腎採取は腹腔鏡にて行っています。年間 20 例前後の腎移植を行っています。

■男性不妊症

男性不妊（精索静脈瘤、閉塞性・非閉塞性無精子症）に対し、マイクロサージェリーを積極的に行っています。非閉塞性無精子症に対し、内分泌療法による精子採取に世界で初めて成功しました。先天性陰茎弯曲症やペロニー病に対する手術、慢性陰嚢痛に対する顕微鏡下精索徐神経術も数多く行っています。

■小児泌尿器科

水腎症、膀胱尿管逆流症、停留精巣および尿道下裂などの手術を多数行っています。これらの疾患を小児期のみではなく、成人期までフォローアップできるような体制で臨んでいます。

■女性泌尿器科

骨盤臓器脱(POP)や腹圧性尿失禁に対する外科的治療(メッシュを用いたロボット支援仙骨腔固定術 TVM や TVT 法など）を産科婦人科や女性外来医師と共同で積極的に行っています。

■排尿障害、尿失禁

前立腺肥大症に対して薬物療法や新しい外科的治療（HoLEP: 経尿道的前立腺核出術）を積極的に行っています。また尿失禁に対しては薬物療法や外科的治療（TVT 法）を行っています。



手術の実際

眼科

外来 0836-22-2518

Ophthalmology

個々に合わせた医療と研究に基づく先進医療を実践

HP



木村 和博 科長
Director. Kazuhiro Kimura

当科は角膜、緑内障、ぶどう膜炎、網膜硝子体、白内障といった眼科疾患全般に対し、診断と治療を行っています。

■角膜疾患

年間約 70 件の角膜移植を実施し、角膜内皮移植（DSAEK）や深層表層角膜移植(DALK）といったパーツ移植も積極的に行っています。感染性角膜炎については、豊富な症例データベースを活用し、病原体の季節性を踏まえた独自の診断法の研究を進めています。

■緑内障

年間 300 件超の緑内障手術を行い、硝子体手術や角膜移植との同時手術など、特殊かつ重症な症例にも対応しています。難治性の緑内障には低侵襲緑内障手術（MIGS）、チューブシャント手術や毛様体光凝固術も施行しています。

■ぶどう膜炎

感染症、がん、全身疾患関連にのぶどう膜炎に対して、他の診療科と密に連携しながら的確な検査に基づく最適な治療を提供しています。難治性ぶどう膜炎には生物学的製剤（抗 TNF- α治療）による治療を、また感染性ぶどう膜炎には PCR を用いた診断法を導入しています。

■網膜硝子体疾患

網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など網膜硝子体疾患全般を診療しています。光干渉断層計（OCT）をはじめとした高度な検査機器を導入し、手術では低侵襲な小切開硝子体手術（MIVS）を実施。薬物治療では抗 VEGF 療法を施行しています。また、新生児集中治療室と連携し、未熟児網膜症の管理・治療も行っています。

■白内障

加齢性、先天性、続発性など、特殊例を含めたさまざまな原因の白内障に対し、最新の超音波白内障装置による手術治療を行っています。



手術の実際

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

外来 0836-22-2520

Otolaryngology・Head and Neck Surgery

QOL の向上を心がけた高度な医療を提供します

HP



菅原 一真 科長
Director. Kazuma Sugahara

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、聞こえ・平衡感覚・におい・味といった感覚や、話す・食べる・飲み込む・呼吸するといった機能を専門とし、QOL に深く関わる診療科です。耳・鼻・頭頸部の幅広い疾患に対し、専門医が対応しています。

耳科、平衡神経科領域では、基礎研究から得られた知見をもとに、正確な診断と適切な治療を提供します。中耳疾患(慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎）には積極的に手術加療を行い、低侵襲手術である経外耳道的内視鏡下耳科手術（TEES）も行っています。難聴の遺伝子診断も保険医療で可能です。鼻・副鼻腔疾患の手術では、ナビゲーションを併用し、安全で確実な手術を施行しています。頭頸部がんでは、手術・放射線・抗がん剤を用いた集学的治療を行うため、多くの職種と連携し治療後の嚥下、発声、呼吸などの機能障害をできるだけ少なくすることを重視しています。

音声・嚥下領域では、喉頭ストロボスコピー、嚥下内視鏡などの精密検査を施行し、ビデオスコープ下に行う喉頭微細手術や嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術といったさまざまな手術加療を施行できます。小児の睡眠時無呼吸症候群では、痛みや合併症の少ない低侵襲な手術を施行できます。



スタッフ

放射線科

外来 0836-22-2930

Radiology

画像診断からカテーテル治療まで、体に優しい先進医療を提供します

HP



伊東 克能 科長
Director. Katsuyoshi Ito

放射線科は、画像診断とインターベンショナルラジオロジー（IVR）を専門としています。

■画像診断

CT、MRI、核医学検査を中心に読影を行っています。CT は 4 台が稼働しており、1mm 以下の高精細画像を高速で撮影可能です。時間分解能の向上により心臓検査における動きのブレも低減され、Dual energy 技術で血管壁石灰化の除去や造影剤分布の視覚化が行えます。MRI は 3 テスラ装置 4 台、1.5 テスラ装置 1 台が稼働しており、特に新しい 3 テスラ装置は高画質な撮像が可能です。多様なシーケンスの比較により病変の特徴を詳細に把握でき、血流や胆汁の流れも可視化できます。核医学検査では SPECT や PET/CT を導入し、フュージョン画像で病変の解剖学的位置関係を正確に描出しています。これらの診断機器を駆使し、全身諸臓器疾患の総合画像診断を行い、質の高いレポートの提供に努めています。

■ IVR

診断から治療まで、血管系・非血管系を問わず幅広い IVR 手技に対応しています。本施設は日本 IVR 学会の専門医修練認定施設であり、複数の IVR 専門医が在籍しています。血管系 IVR では、出血や悪性腫瘍に対する動脈塞栓術を中心に、コイルやカテーテル技術の進歩により細い血管へのアプローチも可能です。CV ポート留置術、ステント留置術、血管内異物除去術、副腎静脈サンプリングも行います。非血管系 IVR では、主に針生検やドレナージ術を実施しており、超音波または CT ガイド下で確実かつ合併症の少ない手技を心がけています。

インターベンショナルラジオロジー

放射線治療科

外来 0836-22-2659

Radiation Oncology

精度が高く体に優しい放射線治療を提供します

HP



田中 秀和 科長
Director. Hidekazu Tanaka

放射線治療は、手術療法、化学療法とともにがん治療の３本柱の一つです。臓器の機能と形態の温存が可能で、身体的負担の少ない治療を行うことができます。照射技術の進歩により、放射線治療を選択される患者さんが年々増加しており、その有用性が注目されています。

本院では、外部照射と小線源治療を施行しています。外部照射は３台のリニアック（直線加速器）を使用し、通常の３次元照射に加え、体幹部定位放射線治療（SBRT）、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）や動体追跡照射などの高精度放射線治療を施行しています。呼吸で動く病変に対しては国内トップクラスの多種類の呼吸性移動対策を実施可能です。

2015 年には世界で初めて動体追跡迎撃照射システムが本院で稼働しました。さらに、呼吸で動く病変の位置を予測し、追いかけて治療する追尾照射が可能な機器も稼働しています。強度変調放射線治療（IMRT）では、隣り合う正常臓器を避けて有害事象（副作用）を増加させることなく、腫瘍に対して正確に高い線量を照射することができます。主に前立腺がん、頭頚部がん、脳腫瘍、肺がんなどに対し、実施しています。

小線源治療では、イリジウム（Ir-192）を用いた腔内照射を子宮がんなどに対して施行し、CT や MRI をもとに病変や周辺臓器の線量を評価する画像誘導小線源治療（IGBT）を行っています。2025 年からは組織内照射を併用するハイブリッド照射も開始しています。また、各診療科とも連携し、患者さんに最適な治療法を提供しています。



放射線治療装置

産科婦人科

外来 0836-22-2522

Obstetrics and Gynecology

私達はいつも女性の幸せを考えています

HP



（事務取扱）
長谷川 俊史 科長
Director. Shunji Hasegawa

当科は婦人科腫瘍、生殖医療、周産期医療の３領域で専門診療を提供しています。

■婦人科腫瘍

あらゆる婦人科腫瘍に対し、手術、化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療を行います。早期子宮体がんには腹腔鏡やロボット支援下手術などの低侵襲手術を導入しています。進行卵巣がんでは個別化治療を実施します。遺伝性乳がん卵巣がん症候群に関して、遺伝・ゲノム診療部や乳腺外科と連携し、カウンセリングから遺伝子診断、その後の予防的手術あるいはサーベイランス等の包括的な医療を提供しています。

■生殖・内分泌

不妊症、ホルモン異常、月経異常、子宮筋腫など幅広い症例に対応しています。子宮筋腫などの良性疾患は、ほとんどの症例が低侵襲の内視鏡手術で対応可能です。不妊症では、多岐にわたる不妊原因の正確な診断と治療に加え、体外受精や顕微授精などの高度生殖補助医療を積極的に提供し、タイムラプスインキュベーターを用いた胚培養も行っています。また、松果体ホルモンであるメラトニンを用いることで不妊治療成績が改善することを世界に先駆けて報告しており、本院独自の治療も行っています。

■周産期医療

正常分娩に加え、ハイリスク妊娠や合併症妊娠に対し、患者さんの病態に応じた適切な周産期医療を提供しています。胎児期に処置を行う胎児治療も積極的です。総合周産期母子医療センターとして、山口県を含む中国・四国地方にも目を向けた周産期医療に取り組んでいます。



手術の実際

麻酔科蘇生科

麻酔科蘇生科
ペインクリニック

外来 0836-22-2523

Anesthesiology [Division of Anesthesiology, Division of Pain Clinic]

頼りになる麻酔科蘇生科を目指して

HP



松﨑 孝 科長
Director. Takashi Matsusaki

当科は、安全かつ快適性を追求した麻酔と、疼痛疾患の全人的治療（ペインクリニック）を行っています。

■麻酔科

外科系全般の手術麻酔に加え、カテーテル血管内治療や消化管内視鏡治療などの内科系治療、各種検査、電気けいれん療法、骨髄採取などの麻酔を行います。心臓病や脳血管障害、肺疾患などの重症合併症を持つ患者さんの麻酔も増加しており、患者さん、ご家族、治療担当医と十分に協議し、最善の治療法と麻酔法を決定します。手術中だけでなく、手術前後の患者さんの快適性も重視し、質の高い医療の提供を目指しています。

■ペインクリニック

痛みの診断と治療を専門とし、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛、腰下肢痛、線維筋痛症、複合性局所疼痛症候群など痛みが持続する難治な疾患を治療しています。薬物療法、神経ブロック療法、手術療法、リハビリテーションなどを組み合わせ、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供します。豊富な知見を診断・治療に取り入れ、高度な疼痛管理を目指します。がん性疼痛の患者さんには、苦痛を和らげ、快適な生活を送っていただけるような医療を提供しています。



透視下神経ブロック

脳神経外科

外来 0836-22-2528

Neurosurgery

外科医の目と技を持ち、神経系の総合医療を行っています

HP



石原 秀行 科長
Director. Hideyuki Ishihara

当科では、脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、てんかん、パーキンソン病、先天性奇形、脊髄・脊椎・末梢神経疾患など、幅広い疾患に対応しています。適切な技術と個別化された治療を組み合わせ、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供しています。

■脳血管障害

脳動脈瘤、脳梗塞などの治療を行っていますが、当科の特色は脳血管内治療専門医８人で全国でも有数の治療を行っていることです。精度の高い診断機器を用いて治療を行っています。

■脳腫瘍

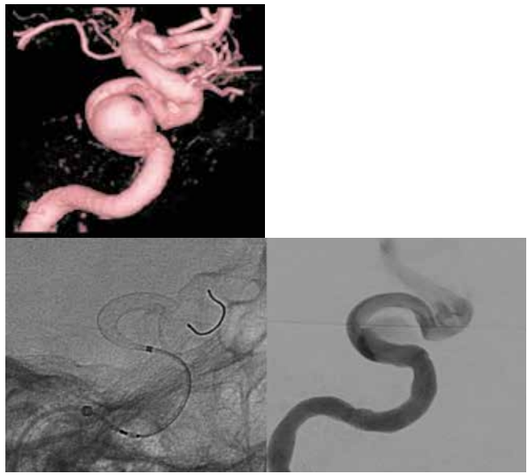
本院は術中 MRI 装置を有しており、外視鏡と内視鏡を用いた低侵襲手術をしていることが大きな特徴です。術中ナビゲーションシステム、神経モニタリングによる安全な手術を行っています。

■機能的脳神経外科

パーキンソン病などに対する脳深部電極刺激療法、てんかんの外科などを精度の高い技術で行っています。

■小児脳神経外科

小児の水頭症、形成異常などについて、専門的な治療を行っています。山口県唯一の小児脳神経外科施設です。



脳動脈瘤に対する新しい治療（フローダイバーター）

歯科口腔外科

外来 0836-22-2530

Oral and Maxillofacial Surgery

地域に根ざし、高度な歯科医療を実践します

HP



三島 克章 科長
Director. Katsuaki Mishima

当科は、口腔がん、顎変形症、口唇口蓋裂を中心に、外傷や顎関節疾患など口腔外科手術全般を担います。

口唇口蓋裂は、出生前のご両親への説明から始まり、成長に合わせた一貫治療を通じて形態・機能ともに「裂がなかったかのような」状態を目指します。顎変形症では、矯正歯科専門医と連携し、最適な咬合と顔貌の回復を目指した安全な手術を計画します。口腔がん治療は、標準治療を基盤に、放射線治療科などとの集学的治療で治癒率向上を目指します。形成外科とも連携し、術後の形態・機能改善、QOL の向上に努めます。

全身疾患を有する患者さんには、各科と連携し一般歯科治療も行っています。入院患者さんの周術期や化学療法・移植治療時の口腔ケアは、口腔ケアチームが合併症の予防に尽力します。また、摂食・嚥下チームのメンバーとして、早期の安全な経口摂取を支援しています。

常勤の歯科技工士１名、歯科衛生士３名が在籍し、迅速かつ精密な義歯等の技工物の提供と適切な口腔ケアを実現しています。



外来診療室

病理診断科

Department of Diagnostic Patholgy

標本の向こうにいる患者さんを想い、確かな診断を未来へつなぐ

HP



荒木 亜寿香 科長
Director. Asuka Araki

病理診断科は、手術や生検で採取された患者さんの組織や細胞を顕微鏡で詳細に観察し、病気の最終診断や治療方針の決定に重要な役割を担っています。私たちは各診療科・診療部門と緊密に連携し、患者さんにとって最適な医療の実現を目指して、正確かつ迅速な病理診断に努めています。

病理医は日々、病理組織標本や細胞診標本を通して病気の現場を見つめています。しかし私たちが向き合っているのは単なる標本ではありません。その向こうにおられる患者さん一人ひとりの人生や思いに心を寄せながら、責任をもって診断に取り組んでいます。

また大学病院として、地域の医療機関との連携を重視し、病理診断支援にも積極的に取り組んでいます。さらに病理学講座と連携し、将来の病理医をはじめとする医療人の育成や研究活動にも力を注ぎ、次世代へ質の高い医療を継承することも私たちの重要な使命と考えています。



病理診断科標本作製室

検査部

Clinical Laboratory

精度と迅速性を追求し、信頼できる検査結果を提供します

HP



山﨑 隆弘 部長
Director. Takahiro Yamasaki

検査部は、生化学・免疫、血液、尿・便などの一般検査、微生物、遺伝子、心電図・呼吸機能などの生理機能まで、幅広く検査を行っています。さらに、主要検査は 24 時間体制で対応し、正確かつ迅速な検査結果を医療者に提供しています。

検査の精度を保つため、日本臨床衛生検査技師会および日本医師会の外部精度管理に積極的に取り組んでいます。2020 年に ISO15189 認証を取得し、国際的な品質管理基準を満たす検査品質を維持しています。

2023 年には検査室の全面的な更新を行い、機器・環境ともにさらなる高度化を遂げています。今後も検査の精度および迅速性を追求し、質の高い診療支援を行います。また、大学病院の検査部として、診療を支えるだけでなく、医学生・臨床検査技師養成課程の学生教育や若手医療者の育成、臨床研究・共同研究にも積極的に取り組み、次世代医療の発展に貢献しています。



手術部

Operating Theater

各診療科の手術が円滑に行えるよう日々努力しています

HP



松﨑 孝 部長
Director. Takashi Matsusaki

手術部は、外科手術から侵襲を伴う内科的治療まで、あらゆる診療科が関与する中央診療部門です。16 室の手術室があり、バイオクリーン室３室、ハイブリッド室２室、MRI 室１室などの特殊な手術室も備えています。手術支援ロボット「ダヴィンチ」を２台導入し、泌尿器科領域をはじめ、食道、胃、肝臓、肺、縦隔、子宮などの手術に活用しています。内視鏡手術機器をハイビジョン化し、高画質な拡大視効果により繊細な手術が可能で、診療録やレントゲン画像は電子カルテとして手術中も閲覧でき、情報共有も円滑です。2024 年２月からは術後疼痛管理チームが発足し、安全面だけでなく周術期管理の質向上により一層努めています。



手術部看護職員

放射線部

Radiological Technology

精度の高い・安心できる画像診断と、放射線治療を提供します

HP



伊東 克能 部長
Director. Katsuyoshi Ito

本院の放射線診断部門は、X 線検査、IVR、CT、MR、核医学検査等、診断に必要な画像検査を提供しています。放射線防護の最適化を考慮し、高画質と低被ばくの両立を目指して、専門知識を有する診療放射線技師が検査に取り組んでいます。

放射線治療部門では、定位放射線治療や強度変調放射線治療（IMRT）、動態追跡照射、画像誘導放射線治療（IGRT）など、高精度な治療を提供しています。

安心して検査や治療を受けていただけるよう、職員一同技術の向上に努めています。



IVR-CT装置　Artis zee SX TA

輸血部

Blood Transfusion

適切な輸血療法の実施に取り組んでいます

HP



山﨑 隆弘 部長
Director. Takahiro Yamasaki

輸血部では、輸血検査と輸血用血液製剤・アルブミン製剤の適切な管理を行っています。また自己血輸血のための採血・管理や、末梢血幹細胞採取、骨髄や臍帯血などの造血幹細胞の調整･保管、再生医療等製品である間葉系幹細胞や CAR-T 細胞の管理も行っています。輸血検査は血液型、赤血球不規則抗体、交差適合試験、血小板抗体など多岐にわたり､臨床検査技師が 24 時間体制で実施。輸血用血液製剤は厳密に温度管理し、コンピューターシステムで管理することで安全性を確保しています。さらに輸血に関する情報を病院職員に発信し、診療科や関連部署と連携しながら適切な輸血療法の実施に取り組んでいます。



自動輸血検査装置

リハビリテーション部

Rehabilitation Center

ニーズに合った急性期リハビリテーションを支援します

HP



坂井 孝司 部長
Director. Takashi Sakai

リハビリテーション部は、医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・事務で構成され、医師の処方に基づき、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を提供しています。B 棟 3 階のリハビリ室には各種治療機器・評価機器を備え、多角的なアプローチが可能です。発症・術直後の患者さんはベッドサイド、病状安定後はリハビリ室でのリハビリに移行します。高次機能病院の特性と人員制限のため、入院患者さんを中心にリハビリを提供し、退院後は近隣病院での継続をお願いしています。

各病棟でのカンファレンスにセラピストが参加して、医師・看護師等と患者さん個々の問題点を検討し、リハビリ目標を統一しています。



運動療法室

先進救急医療センター

Advanced Medical Emergency and Critical Care Center

早く、広く、高く。そしてより温かく

HP



鶴田 良介 センター長
Director. Ryosuke Tsuruta

先進救急医療センター（AMEC[3]）は、国立大学病院に初めて設置された高度救命救急センターです。20 床を有し、専従医師、研修医、看護師、臨床工学技士が専門診療科と連携し、365 日 24 時間体制で重症救急患者の診療にあたっています。当センターは、山口県および近隣地域の生命保持の最後の砦として、大学病院の特色を生かした高度で総合的・集学的な診断と治療を提供しています。研修医や医学生、救急救命士の教育も担っています。また、2003 年よりドクターカー、2011 年よりドクターヘリの運航を開始し、救急現場での早期医療介入を可能にするプレホスピタル医療の拡充に努めています。災害時には、専門研修を受けた災害派遣医療チーム（DMAT）が出動し、迅速な救急医療を提供します。



スタッフ

集中治療部

Intensive Care Unit

安全で満足度の高い先進医療を提供します

HP



松﨑 孝 部長
Director. Takashi Matsusaki

脳、心臓、肺、肝臓、腎臓など重要臓器の機能が低下した患者さん、重症感染症や長時間に及ぶ大手術後の患者さんに対して全身管理を行い機能回復のための集中的な治療を行っています。原因疾患の治療とともに､人工呼吸管理､体外式膜型人工肺（ECMO）を用いた管理、持続的腎代替療法、血漿交換療法などを実施し、呼吸・循環・腎臓・肝臓の機能を迅速かつ適切にサポートします。集中治療専門医、各診療科の専門医、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技師といった多職種が一丸となって、重篤な患者さんに最適な治療を提供し、早期の社会復帰を支援します。



カンファレンス

総合診療部

General Medicine and Primary Care

受診科が分からないときはご相談ください

HP



黒川 典枝 部長
Director. Fumie Kurokawa

総合診療部では、日常生活で生じる一般的な病気や症状のある患者さん、あるいはどのような症状の患者さんでも診療します。「一般内科」を標榜していますが、内科学領域では「総合診療学」です。総合診療科は臓器別に細分化された専門科とは異なり、臓器･年齢・性別にとらわれず、患者さんの病気や症状を幅広く総合的に診ます。そのため、どのような訴えでも診察を断らず、適切な診断と一般的な治療を行います。専門診療科での診療が必要な場合は、適切なタイミングで紹介します。常に「患者さん中心の医療」を心がけ、全人的医療を目指しています。身体的な問題はもちろん、疾患に関連する心理社会的な問題にも対応できる医療です。



一般内科診察室

総合周産期母子医療センター

General Perinatal Medical Center

お母さんとあかちゃんの未来のために

HP



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

当センターは、合併症妊娠や多胎妊娠などのハイリスク妊娠、および早産児、低出生体重児、合併症新生児に医療を行っています。手術に対応可能な分娩室を備えた産科病棟、NICU9 床、GCU12 床を完備し、産科医、小児科医、看護師、助産師、多様な分野の専門職がチームで 24 時間体制の高度医療を提供しています。山口県全域および隣接県からの母体・新生児を受け入れ、ドクターヘリや新生児ドクターカー「すくすく号」で搬送体制も充実しています。母性胎児部門では、胎児異常の正確な診断に努め、胎児治療も積極的に行います。新生児部門では、NICU で超低出生体重児などへの高度治療、GCU で退院支援や一般新生児の治療を提供し、救命だけでなく、後遺症のなき生存「intact survival」を目指しています。



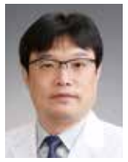
新生児ドクターカー「すくすく号」

光学医療診療部

Division of Endoscopy

体にやさしい内視鏡診断・治療を提供しています

HP



高見 太郎 部長
Director. Taro Takami

食道から大腸までの全消化管、肝臓、胆嚢、胆道、膵臓の疾患に対し、内視鏡を用いた診断と低侵襲治療を提供しています。診断では、色素精密検査、拡大内視鏡、画像強調観察、超音波内視鏡などを駆使し、正確な診断を行います。治療では、従来の内視鏡的粘膜切除術に加え、より広範囲を切除できる粘膜下層剥離術にも積極的に取り組んでいます。肝硬変に伴う食道･胃静脈瘤や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患(IBD)の診断･治療実績も豊富です。小腸疾患にはカプセル内視鏡やバルーン内視鏡による診断･治療が可能です。胆嚢･胆道･膵臓には超音波内視鏡による高度な診療を提供しています。



上部消化管内視鏡検査

血液浄化療法センター

Blood Purification Therapy Center

安全で確実な血液浄化療法を目指して

HP



白石 晃司 センター長
Director. Koji Shiraishi

血液浄化療法センターは、中央診療部門として手術や高度先進医療などを受ける目的で他科に入院された血液透析患者さんに対する入院中の血液透析や、入院中に急性腎不全を発症した患者さんに対する血液透析、血液吸着、血漿交換を行っています。また慢性腎臓病（CKD）末期の患者さんに対する透析導入も行っています。腹膜透析にも力を入れており、血液透析とのハイブリッドも行っています。



透析室

地域遠隔医療センター

Center for Telemedicine and Telehealth

ICT による地域医療連携を支援しています

HP

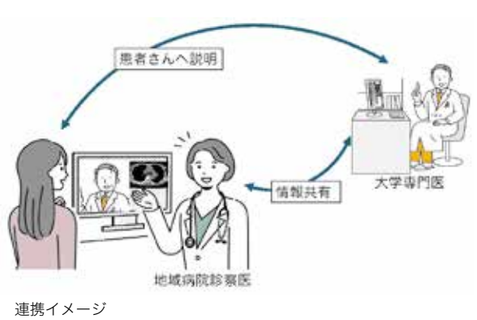


石原 秀行 センター長
Director. Hideyuki Ishihara

地域遠隔医療センターは、ICT を使用して医療機関をつなぐ安全なコミュニケーションを可能とする方法を提供し、山口県および県外の患者さんの診療に役立てることを目的としています。

本院は、山口県全域をカバーし、過疎地域を含む患者さんに最善の医療を提供するために努力をし続けています。本センターでは、オンライン高度専門医コンサルテーション、急性期遠隔画像診断により、県内の過疎地域にお住まいで大学病院への受診が難しく、疾患に対する相談をあきらめている患者さんにも、過疎地域に中継場所を配備し、遠隔でより良い医療を受けることができるサービスを提供しています。

詳しくは、当センターのホームページをご参照下さい。



連携イメージ

高次統合感覚器医療センター

Center for Higher Integrated Sensations

統合的な感覚器医療を目指しています

HP



菅原 一真 センター長
Director.Kazuma Sugahara

眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科の各専門スタッフが、それぞれ専門性の高い診療を曜日ごとの予約制で提供しています。眼科では小児眼科、斜視弱視訓練、視覚電気生理学検査を、耳鼻咽喉科では補聴器外来、聴覚言語訓練、人工内耳リハビリテーション、前庭リハビリテーションなどを行っています。特徴として、全国的にも珍しい統合的な感覚器医療を提供しています。



人工内耳リハビリ風景

再生・細胞治療センター

Center for Regenerative and Cell Therapy

高品質と安全性が担保された細胞加工を行います

HP



山﨑 隆弘 センター長
Director. Takahiro Yamasaki

当センターは再生医療等安全性確保法に基づく特定細胞加工物等製造施設として、特定細胞加工物等の製造や再生医療等製品の調整などを通じて、安全かつ効果的な再生医療・細胞療法の一翼を担っています。日本再生医療学会「再生医療認定施設」の認定を受け、再生医療認定医や上級臨床培養士が製造管理・品質管理に従事しています。大学病院として、医学部研究室で Proof of Concept が取得されたシーズの臨床研究への移行をシームレスに支援します。また、全国初の「臨床培養士養成コース（大学院医学系研究科保健学専攻）」の実習施設としても活用され、再生医療・細胞療法の研究教育に貢献しています。



作業風景

心血管超音波検査室

Cardiovascular Ultrasound Laboratory

からだにやさしい超音波で、心臓と血管の『声』を聴く

HP



佐野 元昭 室長
Director. Motoaki Sano

心血管超音波検査室では、医師と臨床検査技師が連携し、身体の負担が少なくリアルタイムに多くの情報を得られる超音波を用いて、心臓や血管の働きを評価しています。リアルタイム 3D 対応機を含む計 8 台の装置を使用し、経胸壁心エコーや頸動脈エコーなど年間 7,000 件を超える検査を実施しています。目的は、異常の早期発見から、治療方針の決定や効果判定、カテーテル治療や手術のナビゲーションまで多岐にわたります。プライバシーに配慮した 6 つの個室を完備し、絶えず働く心臓や血管の「声」を正確に読み取るため、スタッフ一同が知識と技術を融合させ、日々研鑽を重ねています。



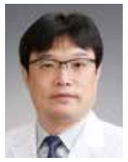
検査室内

腹部超音波検査室

Abdominal Ultrasound Laboratory

体に負担の少ない「優しく精度の高い検査」で確実な診断へ

HP



高見 太郎 室長
Director. Taro Takami

腹部超音波検査室では、成人の腹部超音波（エコー）検査を行っています。従来の主な検査対象であった肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓などの臓器に加え、近年は大腸などの「消化管エコー」にも力を入れています。病気の存在診断の意義が大きかった腹部超音波検査ですが、造影剤を使用した「造影超音波検査」を行うことで、質的診断が可能となりました。

また、近年はライフスタイルの変化に伴い脂肪肝が増加しており、そこから進行する肝硬変や肝がんが社会的な問題となっています。当院では、体に傷をつけない（非侵襲的な）方法で、脂肪肝の程度を数値化したり、肝臓の硬さを測定したりできる技術を導入しています。常に、患者さんに負担の少ない、優しく精度の高い検査を心がけています。



検査の様子

遺伝・ゲノム診療部

Division of Medical Genetics

病気（がん）の遺伝や遺伝子検査など、なんでもご相談ください

HP



末廣 寛 部長
Director. Yutaka Suehiro

病気（がん）が遺伝するかもしれない…そんな不安や疑問をお持ちの方に、臨床遺伝専門医が丁寧に寄り添いながら相談に応じます。妊娠･出産、小児から成人まで、ライフステージに応じた幅広い相談が可能です。また、がんゲノム医療にも力を入れており、2025 年度から院内で専門家によるエキスパートパネルを開催。検査結果をこれまで以上に迅速かつ的確に提供できる体制が整いました。どうぞ安心してご相談ください。



遺伝カウンセリング風景

栄養治療部

Division of Medical Nutrition

患者さんの疾病治療を栄養面からサポート

HP



太田 康晴 部長
Director. Yasuharu Ohta

食事の提供を通して患者さんの栄養面をサポートします。入院・外来患者さんへ栄養・食事指導を行うほか、入院患者さんへの個別の栄養管理や 栄養サポートチーム・緩和ケアチーム・摂食嚥下チーム・心臓リハビリチームなどチーム医療にも参画しています。患者さんにとってベストな栄養管理を目指し、安心・安全な食事の提供に繋げています。

さらに、院内外の医療関係者や地域住民への栄養教育、健康増進・疾病予防の啓発活動も行っています。入院前のアレルギー食品・食形態の把握、栄養情報提供書の作成などを通して、病院機能の向上と地域貢献を目指しています。



チームカンファレンス

腫瘍センター

Oncology Center

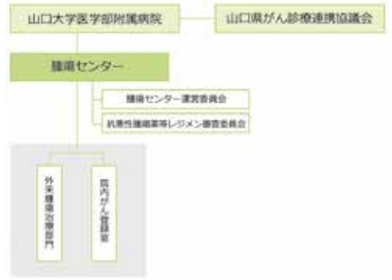
理想のがん診療を追求し、患者さんと共に歩む医療を

HP



井岡 達也 センター長
Director. Tatsuya Ioka

本院は都道府県がん診療連携拠点病院および地域がん診療拠点病院に認可され、山口県のがん治療の中心的役割を担っています。その任務を果たすため設立された当センターは、外来腫瘍治療部門と院内がん登録室を統括し、最先端のがん治療を提供しています。外来腫瘍治療部門では、患者さんが安心して快適に化学療法を受けられるようきめ細かなサービスを提供しています。院内がん登録室では、がんに関する情報を蓄積し、将来のがん治療に役立てています。また、患者相談室（がん相談支援センター）では、専門担当者が患者さんやご家族からの相談に対応しています。がん治療に関する教育セミナーや市民公開講座も定期的に開催しています。



腫瘍センター組織図

漢方診療部

Kampo Medicine

漢方は病気と病人の両方を治療する全人的医療です

HP



瀬川 誠 部長
Director. Makoto Segawa

生活習慣病、老人性疾患、消化器疾患、その他の難治性疾患を中心に、漢方医学に基づいた全人的医療を実践しています。医学的に異常がないと言われたが、めまい、耳鳴り、肩こり、手足の痺れ、頭痛、腹痛、便秘、下痢など多様な症状にお悩みの方に漢方診療は適しています。更年期障害や老化防止を考慮した食養生の指導も行います。専門医による保険の範囲内でのテーラー型の漢方処方で、体質改善を促し、自然な治癒を目指します。診察は、舌診、脈診、日本漢方独特の腹診を全ての方に行い、受診したその日に診断し、投薬治療を開始します。必要に応じて西洋医学的検査や専門科への紹介も行います。

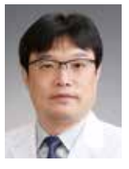
漢方薬の一例（イメージ）

肝疾患センター

Center for Liver Disease

肝疾患診療の拠点としての本院の取り組み

HP



高見 太郎 センター長
Director. Taro Takami

本院は、2009 年 2 月に肝疾患診療連携拠点病院に指定され、肝疾患センターが設立されました。以降、山口県内における肝疾患診療の質の向上と均てん化を目指し、地域医療機関との連携の強化、そして患者さんへ肝疾患に関する適切な医療を提供できる体制づくりを進めてまいりました。また、肝疾患に関する一般市民対象の「市民公開講座」や、県内の医療従事者を対象とした研修会の開催なども行っています。さらに、肝疾患相談支援室を設置し、患者さんやご家族の肝疾患に関する相談に日々対応するとともに、安心して肝疾患診療が受けられる環境づくりに努めています。



肝疾患センター組織図

放射線治療部

Therapeutic Radiology

低侵襲で高精度の放射線治療を提供します

HP



田中 秀和 部長
Director. Hidekazu Tanaka

放射線治療は照射技術の進歩と有害事象が低減したことで、選択する患者さんが増加しています。本院では外部照射と小線源治療を提供しています。外部照射では 3 台のリニアック（直線加速器）を使用し、通常の 3 次元照射に加え、体幹部定位放射線治療（SBRT）、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）、動体追跡照射といった高精度放射線治療を実施しています。2015 年には世界で初めての動体追跡迎撃システムが本院で稼働し、現在は呼吸で動く病変の位置を予測し追尾照射する機器も稼働しています。

小線源治療では、イリジウム（Ir-192）を用いた腔内照射（子宮癌などに施行）や、CT･MRI をもとに病変や周辺臓器の線量を評価する画像誘導小線源治療（IGBT）を行っています。2025 年からは組織内照射を併用するハイブリッド照射も開始しています。また、各診療科とも連携し、患者さんに最適な治療法を提供しています。



本院の治療機器

緩和ケアセンター

Palliative Care Center

緩和ケアが必要な患者さんの QOL 向上のため 苦痛の緩和を目指します

HP



松﨑 孝 センター長
Director. Takashi Matsusaki

当センターの心と体のサポートチームは、身体症状担当医師、精神症状担当医師、緩和ケア認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん化学療法認定看護師、薬剤師、公認心理師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、退院調整看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など多職種で構成され、診断時から患者さんを心身両面で専門的に支えます。また、すべての医療者が基本的な緩和ケアを提供できるよう、院内外での教育･啓発活動も行っています。近隣の医療機関との合同カンファレンスや勉強会を通じて連携を深め、患者さんの転院や在宅療養への移行時も切れ目のないケアを提供しています。



緩和ケア研修会

アレルギーセンター

Allergy Center

アレルギー疾患の患者さんが安心して生活できるように

HP



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

本院は山口県のアレルギー疾患医療拠点病院に指定されており、アレルギー疾患を有する県民がその居住地域に関わらず適切な診断と治療を受けられるよう、県内診療ネットワークの中心的な役割を果たすことを目指しています。当センターは呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科のアレルギー専門医に加え、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士等で構成され、難治症例や複数のアレルギー疾患を合併する症例に対し、集学的な診断・治療と専門職による患者さんへの支援を提供する体制を強化しています。

相談窓口を設置し、患者さん、ご家族、保育・学校などの関係機関からのアレルギーに関する心配事や悩み事に応じており、さらに地域の医療機関からご紹介いただいた難治症例は部門横断的に診療し、必要に応じて合同カンファレンスで症例の検討も行っています。



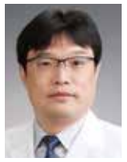
アレルギー週間の集い 2026　県民公開講座

医療材料物流センター

Supply and Infection Control Center

病院診療の安心・安全を支えています

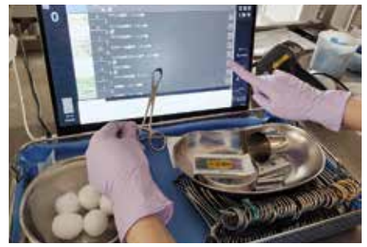
HP



高見 太郎 センター長
Director. Taro Takami

医療材料物流センターでは、本院での安全で円滑な医療の提供のために、外来･病棟･手術部等、病院内で使用する再生医療器材の洗浄滅菌処理や保管等について、トレーサビリティシステムや立体倉庫を活用し中央管理しています。

また、感染制御部、医療の質・安全管理部等と協力して、院内の感染予防に関する情報提供や安全な医療材料の選定を行っています。医療材料等に関する情報を発信するとともに、正しい器材の管理についての指導や講義を学生や職員に対して行い、医療および、看護実践を多方面から支える役割を担っています。



トレーサビリティシステムによる再生器材管理

医療情報部

Medical Informatics and Decision Sciences

病院情報システムで安全かつ質の高い先進医療を支えます

HP



平野 靖 部長
Director. Yasushi Hirano

医療情報部は、病院情報システム（電子カルテ）を管理・運用し、大学病院としての高度先進医療の開発・推進と医療人の育成、山口県の地域基幹病院として質の高い医療の提供を情報面から支援しています。病院情報システムによって診療に関する情報を電子カルテシステム上で登録、および、閲覧・参照が可能です。オーダリングシステムでは検査の依頼、薬剤や注射の処方、各種の検査、手術や処置、リハビリ、入院・外来再診等の予約などもコンピュータ上で行うことができます。安心・安全な医療を行うため、関係部門・部署との連携も含め、医療者間の情報伝達を確実に行えるようなシステム作りに努めています。



疾患マネージメントシート例：糖尿病

臨床研究センター

Center for Clinical Research

「未来の医療を育てる手助け」が私たちの仕事です

HP



下村 裕 センター長
Director. Yutaka Shimomura

臨床試験等（治験、特定臨床研究、人を対象とする生命科学・医学系研究、再生医療）の科学性、倫理性、質の担保を目的とし、医師、CRC（Clinical Research Coordinator）、CRS（Clinical Research supporter）、生物統計家、臨床開発業務経験者、専任の事務職員が連携。研究者への事前相談、申請書類レビュー、研究計画作成、研究デザイン相談といった幅広い支援を提供します。

また、センター内にさまざまな部門を設置し、臨床試験等の普及活動や情報発信も積極的に行っています。

部門等	業務内容	備考
臨床研究推進推進部門 モニタリング室	・企画、開発 ・プロジェクト調整 ・臨床研究推進 ・研究支援 ・モニタリング	
データサイエンス部門	・統計解析 ・データマネジメント ・研究支援	
治験推進部門	・治験事務局※1 ・治験薬管理※2 ・治験推進 ・治験支援	※1 治験推進部門に治験事務局長を置く ※2 治験薬の管理は、薬剤部にて一元管理を行う
CRS育成部門	・CRS育成 ・CRS管理	

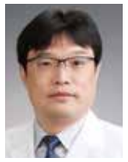
部門と業務内容

ME機器管理センター

Center for Medical Electronics Maintenance

医学と工学の融合領域における高度医療をサポート

HP



高見 太郎 センター長
Director. Taro Takami

ME 機器管理センターでは、医療の高度化に伴う院内医療機器の安全かつ適正な運用・管理を目指しています。薬剤投与ポンプの一元管理や、AED と既存の除細動装置の維持管理を行い、院内全階での除細動を可能にしています。当センターは「医学と工学の融合領域における最先端医療のサポート」をモットーに、心臓外科手術の人工心肺装置、各種血液浄化装置、救急・集中治療室の人工呼吸器などの生命維持装置の操作・保守を担当しています。さらに、循環器内科支援や高気圧酸素治療など、多岐にわたる分野で技術面から臨床現場を支え、安全で質の高い医療提供に貢献しています。



医療機器管理システム

医療の質・安全管理部

Division of Medical Quality and Safety Management

本院理念の実現と医療安全文化の醸成に努めています

HP



渡谷 祐介 部長
Director. Yusuke Watadani

患者さんに安全で良質な医療を提供すべく、個々の医療者が安心して能力を発揮できる職場環境の実現にむけ、病院全体を支えています。2026 年度の医療安全年間目標を「みんなで患者誤認を防止しよう!」とし、多職種が対等に協力し合う体制づくりを推進します。挨拶・情報共有・声かけ・相互確認を行い、患者さんと共に安全を守る文化を育てます。また、医療者の医療安全に関わる知見を深めるよう年 2 回の医療安全講習会や各種 Web 講習会を開催しています。



医療安全講習会の様子

医療経営センター

Center for Medical Management

医療経営情報をもとに健全な病院運営のため、
様々な対策を提言しています

HP



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

病院経営戦略に必要な事項を検討し、病院戦略会議に提案することを目的に、次の業務を行っています。

(1) 基本方針案作成に関すること
(2) 情報(診療情報・経営情報等)の収集･分析･評価および活用に関すること
(3) 収支改善、合理化策の立案に関すること
(4) その他医療経営に関すること

当センターは医師、メディカルスタッフ、事務職員など総勢 45 名からなる多職種チームで構成されています。各現場の声を深く反映しながら、増収策や支出削減などの具体的な収支改善策を企画・立案し、最適なタイミングで病院戦略会議へタイムリーに提案しています。



ミーティングの様子

患者支援センター

Patient Support Center

病院と地域をつなぐ架け橋として

HP



佐野 元昭 センター長
Director. Motoaki Sano

当センターは、患者さんとご家族が安心して医療を受けられるよう、幅広い相談に対応しています。病気や医療費などに関するお悩みはもちろん、がんや脳心血管疾患、肝疾患など専門的な内容についてもご相談いただけます。入院が決まった患者さんに対しては、看護師、薬剤師、管理栄養士などの専門職が連携し、入院前から個々の状況を把握することで、安心して入院生活を送れるよう支援しています。さらに、地域の医療機関、介護施設、行政などと密接に連携し、退院後の各種制度の利用や就労支援などの社会復帰に関することなど、切れ目のないサポート体制を整えています。これにより、患者さんが退院後も地域で安心して生活を続けられるよう、継続的な支援を提供しています。



C 棟 1 階にある患者支援センター

診療録センター

Library Center for Clinical Documents

診療科や診療部門と連携し、
診療記録の適切な管理と更なる質の向上を目指しています

HP



坂井 孝司 センター長
Director. Takashi Sakai

診療録センターでは、診療で発生する同意書や他院からの診療情報提供書などの紙文書を電子化し、保管・管理しています。電子カルテ導入以前の外来・入院の診療記録についても保管・管理し、診療や教育・研究のための貸し出しを行っています。また、診療科や診療部門と連携しながら、診療記録の記載内容や各種書類等に記載すべき内容が適切に記載されているか多職種で点検するなど、診療記録の更なる質の向上を目指し、継続的に取り組んでいます。



スタッフ

感染制御部

Division of Infection Control Management

院内感染のない、より良質な医療を目指しています

HP



枝國 信貴 部長
Director. Nobutaka Edakuni

感染制御部は医療の質向上や治療成功率の向上、入院期間の短縮のため、院内の感染防止と薬剤耐性菌の増加抑制を目指しています。日々、各部署を巡回し、感染対策の状況を評価するとともに、感染症の発生状況を分析し、情報共有や指導・教育を通じて感染拡大防止に努めています。近年は薬剤耐性（AMR）対策に注力し、2019 年より抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を設置しました。専従薬剤師が医師の相談に対応し、適切な抗菌薬の使用を推進しています。さらに、地域連携として宇部・山陽小野田・美祢圏域 の医療機関と協力し、耐性菌情報・抗菌薬使用状況の共有や、新興感染症発生時の訓練などを通じて、地域の感染症診療レベルの向上に貢献しています。



院内巡回風景

医療人育成センター

Career Development Center

高度職業人としてのキャリア形成を支援します

HP



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

医療人育成センターでは、研修医や専攻医等の医師の確保及びキャリア形成の支援、医療の高度化・複雑化に伴う高い専門性を備えた多種多様な医療スタッフの育成、地域医療との連携の推進、育児支援等の職場環境の整備などの諸課題に取り組み、併せて本院に勤務する全てのメディカルスタッフ（事務職員を含む）へのキャリア形成の支援に寄与することを目的としています。当センターには、研修医・専門医支援部門、地域医療支援部門、医療人キャリア支援部門、医療・ケア研修支援部門、サージカルトレーニング部門の 5 部門があり、全医療人の育成・支援に努めています。



ICLS

難病対策センター

Center for Intractable Disorders

難病医療に関する相談や啓発の充実を目指します

HP



清水 文崇 センター長
Director. Fumitaka Shimizu

当センターは、難病の患者さんやご家族（介護者）、医療従事者に対して、難病に関する相談支援や情報提供、入院先の確保に係る連絡調整などを行っています。難病診療連携拠点病院、難病医療協力病院等の医療機関や難病相談支援センター、保健所等、相談機関の連携を強化することにより、適切な医療・相談支援体制の構築を目指しています。

当センターは C 棟 1 階患者支援センター内にあり、難病診療連携コーディネーターが、電話、来所、メールによる相談を受け付けています。また、難病に関わる難病医療従事者を対象とした研修会を開催し、難病医療従事者の質の向上を図っています。



スタッフ会議

広報戦略センター

Public Relations Strategy Center

病院の魅力をわかりやすく発信します

HP



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

広報戦略センターは地域の患者さんに診療内容をわかりやすく伝え、医学生や研修医に本院の魅力を発信していくことを目的に設置されました。本院は県内唯一の特定機能病院として、かつ地域医療を支えるため、診療・教育・研究に力を入れており、本院の取り組みについてわかりやすく情報発信していきたいと考えています。また、定期的に市民公開講座を開催し、地域に対して健康意識の醸成を図るとともに、地域医療を支える医療人の獲得・育成にも広報的視点から取り組んでいます。



広報誌や SNS 等で情報発信

臨床教育センター

Center for Clinical Education

幅広い診療能力を備えた医師の育成に努めます

HP



松永 和人 センター長
Director. Kazuto Matsunaga

宇部中央病院内に設置されている臨床教育センターは、本院のサテライト教育施設です。幅広い診療能力を備えた医師の育成を目的とし、研修医の教育研修、学生の臨床教育、そして卒後臨床研修プログラムの改善・充実に関する業務を担当しています。当センターでは、1･2 次救急診療能力の習得に加え、common disease の入院管理や、豊富な症例･幅広い診療分野での経験が可能です。教育熱心な大学教員による指導のもと、大学同様に整備された学習環境で、研修医向けのセミナーやカンファレンスを通じて実践的なスキルを教授しています。



臨床教育センターでの学生実習発表

QIセンター

Quality Indicator Center

QI を通じた病院機能、医療の質の向上に取り組みます

HP



坂井 孝司 センター長
Director. Takashi Sakai

QI（Quality Indicator）とは、病院の機能や診療、サービス等の「質」について、さまざまな指標を用いて客観的な数値で示したものです。当センターは、指標を分析し改善を行うことで医療の質の向上を図るとともに、患者さんにわかりやすい医療情報を提供することを目的としています。病院機能評価指標や診療の質指標といった臨床指標を活用し、これらの情報を収集・整理・発信することで、病院全体の改善を支援します。

また、関連組織や委員会と連携しながら院内の課題解決に取り組み、QI と関連する活動の定期的な監査を通じて、継続的な医療の質向上を目指しています。



院内ケアプロセス調査

総合診療医センター

General Medicine Center

地域に安心を届ける総合診療の拠点です

HP



黒川 典枝 センター長
Director. Fumie Kurokawa

総合診療医センターは、2025 年に設置されました。地域の患者さんが住み慣れた場所で安心して医療を受け続けられるよう、総合診療医の育成を中心に、山口県の地域医療を支えるさまざまな取り組みを行っています。総合診療医は、年齢や臓器、病気の種類を問わず幅広い健康問題に対応し、必要に応じて専門診療科や地域の医療機関と連携しながら、一人ひとりに寄り添った医療を提供します。当センターでは、医師や指導医への教育支援、県内医療機関との連携強化、医学生の教育、研究活動の支援などを通して、地域で活躍する総合診療医育成を支援しています。

Yamaguchi General Medicine Center

総合診療医センターロゴマーク

生殖医療センター

Center for Reproductive Medicine

不妊症のカップルを支援します

HP



白石 晃司 センター長
Director. Koji Shiraishi

当センターは泌尿器科と産科婦人科が連携し、男女それぞれの不妊原因に対応した治療を提供しています。一般不妊治療に加え、体外受精、顕微授精、胚凍結保存・融解胚移植、精巣内精子採取、顕微鏡下精巣内精子採取術といった高度な生殖補助医療技術（ART）を包括的に実施しています。産科婦人科では、卵子の質向上を目指したメラトニン投与で良好な成績を収めています。泌尿器科は、非閉塞性無精子症に対する顕微鏡下精巣内精子採取術を施行しているほか、精索静脈瘤や閉塞性無精子症に対する新規術式も数多く報告しています。カップルが同じ病院で受診できる点が大きな特徴であり、今後も泌尿器科と産科婦人科で連携を強化し、最善の治療を提供してまいります。



個別培養機器タイムラプスインキュベーター

血管内治療（IVR）・放射線診断治療センター

Center for Interventional Radiology, Diagnostic Radiology and Radiotherapy

体にやさしい治療と診断を追求しています

HP



伊東 克能 センター長
Director. Katsuyoshi Ito

当センターは、消化器内科、循環器内科、脳神経外科、器官病態外科、放射線科など、IVR を行う複数の診療科が連携し、技術の向上を目指しています。器官病態外科の腹部大動脈瘤に対するステントグラフト手術は国内有数の実績を誇り、脳血管・心血管・大動脈・末梢血管疾患に対して包括的に対応しています。放射線診断では AI 再構成技術を搭載した CT・MRI 装置で高精度な画像診断を行っています。2023 年 4 月には RI 病床を 2 床に増床し、山口県内で唯一、神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法も提供しています。また、2024 年度からは PET-CT 装置も稼働しています。放射線治療はほぼ全ての悪性腫瘍に対応し、動体追跡照射も可能です。



PET-CT 装置

こども医療センター

Children's Medical Center

小児科医療の全てを担います

HP



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

こども医療センターは新生児・乳児期から学童期を超えて継続的に、患児が安心して医療を受けられることを目的に設置されました。小児科はアレルギー・免疫・リウマチ性疾患・消化器疾患・血液・腫瘍疾患・新生児疾患など、さまざまな疾患があるのが特徴です。当センターでは小児科のみならず、外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、整形外科、歯科口腔外科など専門分野が異なる各科と連携し、集学的な治療を行っています。



各診療科の連携図

低侵襲手術センター

Center for Minimally Invasive Surgery（CMIS）

ダヴィンチ 2 台体制で手術にあたります

HP



白石 晃司 センター長
Director. Koji Shiraishi

本院は、2012 年に全国の大学病院に先駆けて内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ S」を導入し、前立腺がんを中心にロボット支援下手術を実施してきました。2023 年 4 月にはダヴィンチ Xi」も導入し、山口県内初のダヴィンチ 2 台体制で、多くの診療科が毎日手術を行っています。ロボット・鏡視下手術を安全に遂行するために、外科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士、事務職員など、全ての医療スタッフが診療科の垣根を越えて横断的に連携し、各々の知識や技術を共有してチーム医療に努めています。患者さんにとって理想的な手術方法を常に探究し、安心・安全で満足度の高い外科医療を提供することを目指します。



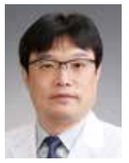
手術支援ロボット（ダヴィンチ）

IBD センター（炎症性腸疾患センター）

IBD Center

ライフイベントを病気で断念することがないように

HP



高見 太郎 センター長
Director. Taro Takami

潰瘍性大腸炎、クローン病に代表される IBD（炎症性腸疾患）全般を診療する目的で、内科・外科・小児科・放射線科等が診療科の枠を越えて診療を行っています。また、放射線部、看護部、薬剤部、栄養治療部、検査部、超音波センター、ME 機器管理センター、難病対策センターとも連携することにより、包括的な患者さんのサポートを行います。指定難病の申請など、公的支援については患者支援センターにご相談いただけます。

本院における CT を使用した病態評価法は全国的にも評価されており、今後もこのデータを蓄積しながら、患者さんの疾患の改善および QOL の向上を目指してまいります。

IBD CENTER

IBD センターのロゴ

高齢者がん治療センター

Center of Cancer Care for Elderly Patients

年齢を理由にがん治療を断りません

HP



井岡 達也 センター長
Director. Tatsuya Ioka

75 歳以上の高齢がん患者さんを対象とした当センターでは、手術、化学療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を提供します。高齢者総合的機能評価（CGA）により、認知機能、生活機能障害、精神・社会状況、併存疾患などを包括的に評価。抽出された問題点に対しては、必要に応じて他診療科・部門が連携し、二次評価・対応のマネジメントを行います。高齢者は身体・臓器機能や認知機能の低下、多剤内服など非高齢者と異なる背景を持つため、生存期間のみならず、治療後の生活に必要な身体および精神機能維持と QOL を重視します。多職種・他診療部と連携を強化し、最適な治療を提供してまいります。



市民公開講座の様子

臨床心理センター

Clinical Psychology Center

患者さん、ご家族、院内職員の心理支援に努めます

HP



中川　伸 センター長
Director. Shin Nakagawa

本院で勤務している心理職（臨床心理士、公認心理師）は精神科神経科をはじめ、小児科や緩和ケアセンターに配置され、各々の業務に従事しています。当センターでは、本院の心理職を組織化し、臨床心理に関する業務を集約することで患者さんやそのご家族に対する円滑な心理支援の実現を目指しています。さらに、患者さんやそのご家族をさまざまな面から支える院内スタッフの相談にも対応し、スタッフのよりスムーズな患者さん支援を間接的にサポートしてまいります。また、当センターでは公認心理師や臨床心理士を養成する実習も実施しています。



院内スタッフの相談にも対応

脳卒中・心臓病等総合支援センター

Stroke and Cardiovascular Diseases Support Center

多職種連携で、脳卒中や心臓病の患者さんを支援します

HP



石原 秀行 センター長
Director. Hideyuki Ishihara

2024 年 7 月に設置された当センターは厚生労働省のモデル事業であり、脳卒中・心臓病等の患者さんを中心とした包括的な支援体制を構築するため、多職種連携による総合的な取り組みを進めています。脳卒中・心臓病の患者さんとそのご家族へのサポートを目的としています。また、山口県と連携を取りながら、地域住民への循環器病予防を含む普及啓発活動や、地域の医療機関・かかりつけ医向け研修会の開催、患者支援情報の提供などを通じて協力体制を強化し、山口県全体の患者支援体制の充実を図ります。主な活動として、患者さん・ご家族向けの相談支援窓口（電話・メール含む）設置、パンフレット等の資材開発・提供、患者さんの状態や目的に合わせた医療・介護・福祉・就労・障害に関する入院・外来でのリハビリテーションを含む相談支援を行います。

脳卒中・心臓病等総合支援センターのロゴ

膠原病センター

Center for Autoimmune and Connective Tissue Diseases

膠原病診療の発展に努めます

HP



佐野 元昭 センター長
Director. Motoaki Sano

膠原病は、生体の免疫系が異常を起こし、さまざまな臓器に障害を起こし得る疾患です。2026 年 4 月に設置された当センターは、本院の臨床系講座・山口大学医学部の基礎医学講座や病態検査学講座に所属する多数の医師・研究者から構成されます。当センターは、膠原病の新規治療や検査方法の開発、膠原病診療を志す医師の教育支援に加えて、複数の診療科の自己免疫疾患のエキスパートが診療連携を行うことで、膠原病の患者さんへより良い医療を提供することを目指しています。



診療の様子

薬剤部

Pharmacy Department

薬のリスクから患者さんを守ります

HP



北原 隆志 部長
Director. Takashi Kitahara

薬剤部は「薬のリスクから患者を守る !!」を合言葉に、医師や看護師などの医療スタッフと連携し、患者さんへ安心・安全かつ適正な薬物治療を提供しています。
主な業務は以下の通りです。

■調剤：医師の処方に基づき、内服薬、外用薬、注射薬の調剤を行います。投与量、投与方法、相互作用などを確認し、IT 技術を活用した自動化も積極的に導入しています。

■製剤：抗がん剤の混合調製が中心で、土日祝日も対応可能です。薬剤師全員が抗がん剤調製スキルを習得しています。

■薬品管理：院内で使用する医薬品の購入・保管管理に加え、麻薬や毒薬などの規制医薬品も厳重に管理しています。

■病棟薬剤業務：全病棟に薬剤師を配置し、患者さんへの薬学的ケアはもちろん、医師や看護師と協働して薬物治療の適正化を推進しています。特に副作用モニタリングに注力し、患者さんの安全確保に努めています。

■医薬品情報管理：医薬品の有効性・安全性に関する情報を収集し、医療スタッフへ提供するとともに、副作用イベント情報の収集・蓄積を行っています。

■臨床研究支援：新薬開発の臨床試験や、医師主導の臨床研究において、試験薬の管理や CRC（治験コーディネーター）業務を担っています。

■その他：血中薬物濃度値に基づく処方作成支援、薬学生の臨床実習指導、臨床的な疑問に関する研究なども行っています。



服薬指導風景

看護部

Division of Nursing

「あたたかさ」「その人らしさ」を大切にした看護を

HP



藤井 聡美 部長
Director. Satomi Fujii

看護部は「あたたかい看護の探求と実践」の理念のもと、対象者の尊厳や権利を尊重した実践を通して、患者さんやそのご家族をはじめ、共に働く人々も含めて、全ての人々が常に「あたたかさ」を実感できる組織づくりを目指しています。また、看護の対象者が生きてこられた環境やその人の価値観を「その人らしさ」と捉え、病気や障害を抱えながらも生活が営めるよう療養上のお世話を行うことを大切にしています。

看護部では、自律した看護職員の育成のために、「目標管理」「人事評価」「キャリアラダー」を三本柱としたシステムで、看護職員の成長とやりがいを支援し、「5 年後の自分に夢が持てる」組織づくりに取り組んでいます。

看護提供方式は、責任と継続性のある看護の役割を果たすために固定チームナーシングを基盤としています。また、看護職員同士がペアを組み、患者状態のアセスメントや看護計画を確認し合いながらケアを実践することで、患者と職員の安全を守り、看護の質を保証することを目指しています。



ペアラウンドの様子

建物配置図

Building Layout

1 医学部本館

6F 会議室（第１～３）
テレビ会議室

5F 薬理学講座
法医学講座

4F 病理形態学講座
分子病理学講座

3F 免疫学講座
微生物学講座

2F 学部長室
病院長室
事務部長室
総務課
広報戦略センター

1F 経営企画課
管理運営課
医学教育学講座

2 基礎研究棟

6F 機械室

5F 公衆衛生学・予防医学講座
システムバイオインフォマティクス講座

4F 神経解剖学講座
器官解剖学講座

3F 分子細胞生理学講座
神経生理学講座

2F システムズ再生・病態医化学講座
医化学講座

1F ICT 基盤センター小串分室
臨床検査・腫瘍学講座

3 臨床研究棟

9F 高次脳機能病態学講座
歯科口腔外科学講座

8F 泌尿器科学講座
皮膚科学講座

7F 眼科学講座
耳鼻咽喉科学講座

6F 小児科学講座
産科婦人科学講座

5F 病態制御内科学講座
消化器内科学講座

4F 脳神経外科学講座
器官病態内科学講座

3F 麻酔・蘇生学講座
整形外科学講座

2F 消化器・腫瘍外科学講座
器官病態外科学講座

1F 放射線医学講座

4 実習棟 A

4F 基礎実習室

3F 衛生・微生物学実習室

2F チュートリアル室

1F 学務課
医学部附属
医学教育センター



- 医学部施設
- 附属病院施設 A棟
- 附属病院施設 B棟
- 附属病院施設 C棟
- その他施設

5 医修館（総合研究棟 A）

5F 大学研究推進機構
産学公連携・研究推進センター（小串URA）
学術研究部ライフサイエンス支援課
革新的コア医療技術実用化推進本部
会議室
セミナー室
教員室

4F SMAC

3F 実習室
実習準備室

2F 第２講義室

1F 第１講義室
多目的室

6 医明館（総合研究棟 B）

8F 多目的室

7F･6F 実験室

5F･4F 実習室

3~1F 講義室

7 A 棟

12~6F 入院フロア

6F 総合周産期母子医療センター
NICU・GCU・MFICU

5F 設備室フロア

4F 手術部

3F 集中治療部
輸血部
病理診断科

2F 栄養治療部
薬剤部
医療材料物流センター

1F 救急外来
先進救急医療センター
コンビニ
オーディトリアム
時間外受付

8 B 棟

10~4F 入院フロア

3F リハビリテーション部
歯科口腔外科
精神科神経科・心療内科
遺伝・がんゲノム診療外来

2F 消化管内視鏡室
検査部
カフェ、コンビニ
クリーニング、理美容室

1F 核医学（RI）診療
カフェ
感染制御部
心臓カテーテル室
PET 検査室
警備員室・面会受付
ME 機器管理センター

9 総合研究棟C

6F 呼吸器・感染症内科学講座

5F 医療情報部

4F 救急・総合診療医学講座
放射線腫瘍学講座

3F 臨床神経学講座
放射線腫瘍学講座

2F 総合診療部

1F ATM（山口銀行）

10 C 棟（外来診療棟）

4F 診療録センター

3F 内科
呼吸器・感染症内科
治験外来
漢方外来
一般内科
外科
腫瘍センター・化学療養室

2F 眼科
脳神経外科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
高次統合感覚器医療センター
泌尿器科

1F 総合外来
患者支援センター
医事課・医療支援課
難病対策センター
脳神経内科
整形外科・リウマチ科
小児科
アレルギー科
小児心エコー室
コンビニ

11 C 棟（第1中央診療棟）

3F 医療人育成センター
（クリニカルスキルアップセンター）

2F 医療人育成センター
医療の質・安全管理部

1F 臨床研究センター

12 C 棟（第2中央診療棟）

3F 再生・細胞治療センター

1F 放射線部

13 C 棟（新中央診療棟）

4F 看護部

3F 輸血部（自己血採血室）
血液浄化療法センター
肝疾患センター
産科婦人科
皮膚科・形成外科
生殖医療センター

2F 心・血管エコー室
腹部エコー室
生理機能検査

1F 放射線科
麻酔科蘇生科

14 C 棟（放射線治療棟）

1F 放射線治療科

15 保健学科研究棟

4~2F 看護学専攻研究室
検査技術科学専攻研究室

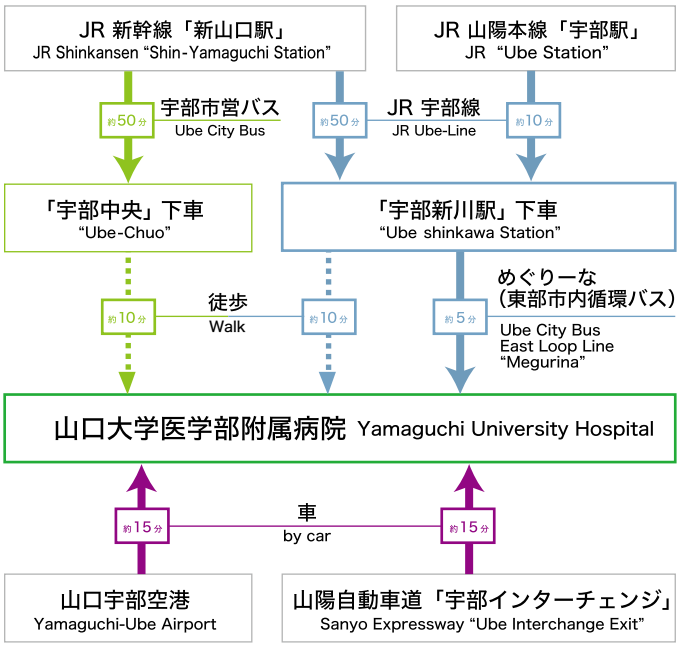
1F 会議室・事務室

16 保健学科第2研究棟

4~1F 講義室・オープンラボ

病院へのアクセス方法





YAMAGUCHI UNIVERSITY 山口大学

山口大学医学部附属病院

〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号

TEL(0836)22-2111／FAX(0836)22-2113

HP　facebook　Instagram　YouTube

